

愛知医科大学 学報



— 学 是 —

ぐ がん こう きゅう

具眼考究

学是の制定
(関連記事12頁)

＝ 第147号 ＝

2017. 7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

平成30年度学生募集概要	2
オープンキャンパス2017開催	5
平成28年度愛知医科大学決算	6
立石プラザのご案内	10
学是の制定	12
教授就任インタビュー	16
南イリノイ大学医学部短期留学体験記	22
平成29年度科学研究費助成事業交付決定	39
海外研修派遣研修記	47
Smile ～スマイル～	48

平成30年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程					
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
推薦入学（公募制）	約25名※1	11/1～11/10 [消印有効]	11/18	本 学	11/24
愛知県地域特別枠入学A方式	約5名※2				
国際バカロレア入学	若干名				
一般入学	約65名	12/11～1/11 [消印有効]	第1次試験 1/23	名古屋, 東京 大阪, 福岡	1/29
			第2次試験 2/1・2 (いずれか希望する日)	本 学	2/8
大学入試センター試験利用入学	約15名	12/11～1/12 [消印有効]	第1次試験 1/13・14 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	2/8
			第2次試験 2/15	本 学	2/22
愛知県地域特別枠入学B方式	約5名※2	2/16～2/27 [消印有効]	第1次試験 1/13・14 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	3/5
			第2次試験 3/9	本 学	3/15

※1 国際バカロレア入学若干名を含む。

※2 愛知県地域特別枠入学はA方式・B方式合わせて10名を選抜。

◆入試科目・配点・時間						
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間	
推薦入学（公募制） 愛知県地域特別枠入学A方式	小論文			5段階評価	60分	
	基礎学力試験 (数学)	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B』		100点	60分	
	基礎学力試験 (外国語)	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』		100点	60分	
	面接（個人面接）			5段階評価	—	
国際バカロレア入学	書類選考・適性検査・面接（個人面接）					
一般入学	第1次試験	理 科	『物理基礎・物理』, 『化学基礎・化学』, 『生物基礎・生物』の3科目のうち2科目を選択	200点 (各100点)	100分	
		数 学	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B』※1	150点	80分	
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』	150点	80分	
	第2次試験	小論文			5段階評価	60分
		面接（個人面接）			5段階評価	—
	大学入試 センター試験 利用入学	第1次試験 (大学入試 センター試験)	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）	100点	大学入試 センター試験 実施日程どおり
数 学			『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』	200点 (各100点)		
理 科			『物理』, 『化学』, 『生物』の3科目のうち 2科目を選択	200点 (各100点)		
外国語			『英語（筆記・リスニング）』	200点※2		
第2次試験		面接（個人面接）			5段階評価	—
愛知県地域特別枠入学B方式	試験内容は大学入試センター試験利用入学と同様					

※1 数学Bの出題範囲は「数列」及び「ベクトル」とする。

※2 250点を200点に変換。

平成30年度看護学部看護学科学学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
推薦入学	指定校制	約15名	10/16～10/31 [消印有効]	11/11	本 学	11/21
	公募制	約15名				
社会人等特別選抜		5名				
一般入学		50名	12/25～1/16 [消印有効]	1/28		2/7
大学入試 センター試験 利用入学	A方式	10名	12/25～1/19 [消印有効]	1/13・14 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験受験会場	2/7
	B方式	5名				
◆入試科目・配点・時間						
区 分		出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間
推薦入学	指定校制	面接		—	—	
	公募制	国語	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』		100点	45分
		数学	『数学Ⅰ・数学A』※1		100点	45分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	45分
		面接		—	—	
社会人等特別選抜		小論文		—	60分	
		面接		—	—	
一般入学		国語・数学	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』 『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A』から1科目を選択※1※2		100点	60分
		理 科	『物理基礎』、『化学基礎』、『生物基礎』から1科目を選択		70点	45分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	60分
大学入試 センター試験 利用入学	A方式	国語・数学	『国語（近代以降の文章のみ）』 『数学Ⅰ・数学A』、『数学Ⅱ・数学B』から1科目を選択		100点	大学入試 センター試験 実施日程どおり
		理 科	①『物理基礎』、『化学基礎』、『生物基礎』、『地学基礎』 ②『物理』、『化学』、『生物』、『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択		100点	
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』		100点	
	B方式	国 語	『国語（近代以降の文章のみ）』		100点	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』、『数学Ⅱ・数学B』 から1科目を選択		100点	
		地理歴史・ 公民	『世界史B』、『日本史B』、『地理B』、『現代社会』 、『倫理』、『政治・経済』、『倫理、政治・経済』 から1科目を選択		100点	
		理 科	①『物理基礎』、『化学基礎』、『生物基礎』、『地学基礎』 ②『物理』、『化学』、『生物』、『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択		100点	
	外国語	『英語（筆記・リスニング）』		100点		

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。

平成30年度大学院医学研究科(博士課程)学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：平成29年8月14日（月）から
平成29年8月28日（月）まで（必着）
試験日：平成29年10月6日（金）
試験場：大学本館
合格発表：平成29年10月27日（金）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：平成29年12月11日（月）から
平成29年12月25日（月）まで（必着）
試験日：平成30年2月9日（金）
試験場：大学本館
合格発表：平成30年2月23日（金）

3 試験項目・時間

試験項目	時間
外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※外国人志願者の外国語試験は，英語一か国語のみによる試験又は英語及び日本語の二か国語による試験のいずれかを選択する。	10：00 ～ 12：00
面接試験 (志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。)	13：00～

平成30年度大学院看護学研究科(修士課程)学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域
広域看護学分野	看護管理学領域
	母性看護学領域
	慢性看護学領域
	精神看護学領域
	地域看護学領域
高度実践看護学分野	感染看護学領域（※1）
	クリティカルケア看護学領域（※2）

- ※1 高度実践看護師（専門看護師〔CNS〕）コース
- ※2 高度実践看護師（診療看護師）コース

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：平成29年8月10日（木）から
平成29年8月25日（金）まで
(消印有効)
試験日：平成29年9月6日（水）
試験場：看護学部棟内講義室
合格発表：平成29年9月13日（水）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：平成30年1月9日（火）から
平成30年1月22日（月）まで（消印有効）
試験日：平成30年2月8日（木）
試験場：看護学部棟内講義室
合格発表：平成30年2月14日（水）

4 試験科目・時間

《修士論文コース》

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目(専攻領域)
13：15～	面接

《高度実践看護師（専門看護師〔CNS〕）コース》

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目(CNS関連分野)
13：15～	面接

《高度実践看護師（診療看護師）コース》

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目(関連領域の病態生理学)
13：15～	面接

オープンキャンパス2017開催

平成29年度のオープンキャンパスを平成29年7月22日（土）と8月11日（金・祝）に実施しました。

参加人数は、遠方からの参加もあり、2日間合わせて医学部は471組836名、看護学部は618組929名の合計1,765名で過去最高の来場者を数えました。

オープンキャンパスでは、たちばなホールでの「大学概要説明、入試説明」に始まり、レストランオレンジでの「学食体験」に加え、医学部は「キャンパスツアー」、学生トークライブ（入学試験合格体験談・留学体験談・研究・学会発表体験談）等を行い、看護学部は「在学生からのメッセージ」、「実習体験」等を行いました。

在学生の案内による「キャンパスツアー」においては、ドクターヘリを見学しながらのフライトドクター及びフライトナースによる説明が大変好評で、会場が賑わいました。

また、シミュレーションセンターにおける実習体験と国際交流センターの活動紹介（パネル展示）では、オープンキャンパスに来なければ知ることができない様々な体験ができました。

そして、教職員による「入学試験個別相談コーナー」では、入学試験の内容などに関する相談が多くあり、「学生との相談コーナー」では、在学生から入学試験に臨む心構えや入学後の状況等を聞く良い機会として参加された方も数多く見られました。



受付風景



ドクターヘリ見学



人体シミュレータを使った実習体験



脳の標本観察風景
(加齢医科学研究所)



キャンパスツアー
(総合学術情報
センター(図書館))

OPEN CAMPUS



未来カンファレンス

豊知医科大学
RIKIJI MEDICAL UNIVERSITY

未来カンファレンス

オープンキャンパスは未来について考える場です。一方的な情報提供ではなく、見て、聞いて、語って、大学生活を体感しながら、未来について語り合ってもらいたいと考え、その思いを「未来カンファレンス」と表現しました。

シンボルマークは、医療人のタマゴの殻が割れて生まれ、成長していくことを表しており、タマゴに入るヒビは心電図の波形であり、未来への胸の高鳴りを意味しています。

平成28年度愛知医科大学決算

平成29年5月29日（月）に開催された理事会及び評議員会において、平成28年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

■概要

平成28年度事業計画では、愛知医科大学の発展はまさにこれからで、現在はその基盤を着実に作っている最中であり、平成28年度は、効率的で高収益体質への構造改革を期し、その中核をなす医療収入を確保することが掲げられている。

注目の医療収入は、過去最高となる323億円強の決算（予算達成率97.7%）を計上することができた。

本院の病床稼働率は、ほぼ前年度並みの88.4%だったものの、入院診療単価は+1,409円、2.1%のアップとなり、1日平均外来患者数は、+45.5人、1.8%アップとなった。県内唯一の高度救命救急センター、ドクターヘリに関する指標も、救急車搬送患者数+212人、3.8%アップ、ドクターヘリ出動件数+20件、7.7%アップ、受入率は13.5%アップ、また、手術件数も+590件、5.4%アップと各指標は、順調に推移した。

一方、支出の中で大きなウエイトを占める人件費については、人的資源の確保を図りつつ、在籍出向等新たな制度の導入、更に、人事院勧告の完全実施に取り組んだ。その結果、人件費率は、43.67%（前年43.77%、0.10%改善）に抑えることができた。

平成28年度も3度の補正予算を組み、がん拠点病院に向けた病院病理部の医療機器の整備、地域医療教育学寄附講座及び先端レーザー医学寄附講座の設置等遅滞なく対応し、大学全体のアクティビティの向上を図った。

こうしたことから収支差は、補正後予算から大幅に改善し、事業収支差は、約▲22億55百万円となった。資産売却差額・資産処分差額及び新病院建設等に係る特殊要素（寄付金、減価償却）を考慮した実質の収支差は、約6億2百万円となり、昨年度に引き続き、黒字決算となった。

事業活動収支計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

（単位：百万円）

		科目	金額	前年差		
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,317	128		
		手数料	212	5		
		寄付金	382	△125		
		経常費等補助金	1,639	△50		
		付随事業収入	646	264		
		医療収入	32,309	541		
		雑収入	598	△78		
		教育活動収入計	41,104	685		
		教育活動支出の部	事業活動支出の部	人件費	18,020	210
				教育研究経費	24,430	1,558
管理経費	720			△139		
徴収不能額等	7			△11		
教育活動支出計	43,177			1,619		
		教育活動収支差額	△2,073	△933		
教育活動外収入の部	収入の部	受取利息・配当金	11	△9		
		その他の教育活動外収入	0	0		
		教育活動外収入計	11	△9		
	支出の部	借入金等利息	307	27		
		その他の教育活動外支出	0	0		
		教育活動外支出計	307	27		
		教育活動外収支差額	△296	△36		
		経常収支差額	△2,369	△970		
特別収入の部	収入の部	資産売却差額	0	0		
		その他の特別収入	153	△101		
		特別収入計	153	△101		
	支出の部	資産処分差額	33	△2,052		
		その他の特別支出	6	3		
		特別支出計	39	△2,049		
		特別収支差額	113	1,947		
		基本金組入前当年度収支差額	△2,255	978		
		基本金組入額合計	△5,252	△2,957		
		当年度収支差額	△7,507	△1,979		
		前年度繰越収支差額	△40,034	△5,529		
		基本金取崩額	33	33		
		翌年度繰越収支差額	△47,509	△7,474		

（参考）

事業活動収入計	41,268	575
事業活動支出計	43,523	△403

（注）科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

資金収支計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
学生生徒等納付金収入	5,317	128	人件費支出	18,069	293
手数料収入	212	5	教育研究経費支出	20,329	1,920
寄付金収入	459	△134	（うち医療経費支出）	(18,167)	(1,879)
補助金収入	1,679	△111	管理経費支出	548	△132
（国庫補助金収入）	(1,334)	(△145)	借入金等利息支出	308	27
（地方公共団体補助金収入）	(345)	(34)	借入金等返済支出	5,485	4,241
資産売却収入	0	△278	施設関係支出	1,516	584
付随事業・収益事業収入	646	264	設備関係支出	1,056	130
医療収入	32,309	541	資産運用支出	110	△135
受取利息・配当金収入	11	△9	その他の支出	3,868	△448
雑収入	598	△92			
借入金等収入	3,110	2,970			
前受金収入	884	△216			
その他の収入	9,654	2,928			
資金収入調整勘定	△7,192	337	資金支出調整勘定	△3,565	△292
前年度繰越支払資金	3,889	△182	翌年度繰越支払資金	3,854	△35
収入の部合計	51,578	6,152	支出の部合計	51,578	6,152

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

貸借対照表

平成29年3月31日現在

(単位:百万円)

資産の部			負債の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
固定資産	56,959	△4,415	固定負債	29,843	957
有形固定資産	48,110	△1,610	長期借入金	20,434	1,368
土地	8,773	391	学校債	1,410	△190
建物	30,889	△1,792	長期未払金	1,744	△172
構築物	1,431	403	退職給与引当金	6,254	△49
教育研究用機器備品	5,291	△1,033	流動負債	6,558	△3,449
管理用機器備品	183	△10	短期借入金	1,432	△3,600
図書	924	5	1年以内償還予定学校債	300	47
車両	6	△1	未払金	3,600	306
建設仮勘定	614	426	前受金	896	△228
特定資産	7,965	△2,743	預り金	331	26
学校債償還引当特定資産	1,710	△143			
借入金返済引当特定資産	4,100	△2,500	負債の部合計	36,400	△2,492
医療機器等整備調整資金引当特定資産	1,850	0	純資産の部		
教育研究奨励引当特定資産	200	△100	基本金	78,528	5,219
国際交流推進引当特定資産	60	0	第1号基本金	75,476	5,252
教育研究活性化引当特定資産	45	0	第4号基本金	3,052	-33
その他の固定資産	884	△62	繰越収支差額	△47,509	△7,474
借地権	20	0	翌年度繰越収支差額	△47,509	△7,474
電話加入権	5	0	純資産の部合計	31,020	△2,255
施設利用券	189	△15	負債及び純資産の部合計	67,420	△4,747
ソフトウェア	368	△126			
有価証券	11	0			
長期貸付金	290	78			
保証金	0	0			
預託金	0	0			
流動資産	10,461	△332			
現金預金	3,854	△35			
未収入金	6,023	△416			
貯蔵品	356	144			
短期貸付金	87	△15			
立替金	2	△1			
前払金	138	△8			
資産の部合計	67,420	△4,747			

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

■前年度との比較（主な増減）

(1) 事業活動収支計算書

収入…事業活動収入は413億円で、前年度と比較して6億円（1.4%）の増加となった。これは診療単価の増加などにより医療収入が5億円増加し、新病院の持つ本来の機能が発揮されてきたところである。また、学納金も1億円の増収となった。

支出…事業活動支出は435億円で、前年度と比較して4億円（0.9%）の減少となった。要因として、前年度はA B棟及び高度救命救急センターの解体による資産処分差額が約17億円計上されていたことによるものである。一方、診療に係る薬品材料費、診療材料費等は支出増となった。

(2) 資金収支計算書

新病院建設関連事業（キャンパス再整備計画）を引き続き執行した。駐車場整備事業及びアメニティ棟等新築工事等の事業を実施し、施設関係支出は15億円計上、前年度と比較して6億円増加、設備関係支出は11億円計上、前年度と比較して1億円増加した。

(3) 貸借対照表

資産総額は674億円で、前年度と比較して47億円（6.6%）の減少となった。建物及び教育研究用機器備品の減価償却による減少の影響である。また、純資産（基本金＋繰越収支差額）は310億円で、前年度と比較して23億円（6.8%）の減少となった。引当特定資産運用計画どおりの減少によるものである。

■最後に

昨年度の事業報告書の中で「当面の課題」として掲げた取り組むべき数々の事項について、例えば、バス路線のハブ化実現や地域貢献も含めた立石プラザ（アメニティ棟）のオープン等、中央棟（新病院）を中心としたインフラ整備はいよいよ完成に近づきました。まさに舞台は整ってきたところです。

一方、医学教育分野別評価の受審、研究活動の活性化、情報セキュリティ対策、関連病院の整備、地域がん診療連携拠点病院の承認、寄付文化の醸成等まだまだ重要な事項が山積しています。教育、医療それぞれの改革が叫ばれ大学を取り巻く環境もより厳しいものとなってきます。しかし、やるべき課題は明確となり、舞台も整い、役者も揃ってきました。いよいよ職員が一丸となってこれに立ち向かっていかねばなりません。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。
<http://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0105/index.html>

役員・評議員の異動

【理事】

辞任 小出龍郎, 櫻井 敏（平成29年5月31日付）
就任 浅井富成, 久徳重和（任期：平成29年6月1日～平成31年1月27日）

【評議員】

辞任 小出龍郎, 藪下廣光, 櫻井 敏（平成29年5月31日付）
就任 浅井富成, 今村 明, 加藤政隆（任期：平成29年6月1日～平成31年1月27日）

【監事】

再任 林 清博（任期：平成29年5月30日～平成32年5月29日）

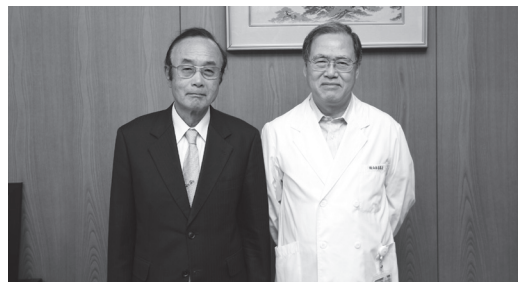
安藤高宣元輸血部技師長 春の叙勲の栄誉

本院輸血部元技師長の安藤高宣さんが、平成29年春の叙勲において、瑞宝双光章を授与され、平成29年5月12日（金）国立劇場大劇場において伝達式が行われ、皇居において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

安藤元技師長は、昭和52年4月に中央臨床検査部の臨床検査技師として、愛知医科大学に入職されました。平成9年4月から新設された輸血部の主任として就任され、他の専任スタッフとともに輸血業務の一元化に尽力され、輸血過誤防止強化や製剤準備の迅速化の実現により本院の輸血における安全性が格段に高まりました。

平成20年4月には、輸血部技師長に昇任され、新病院建設プロジェクトにおいても自部門のみならず、病院全体へ大きく貢献されています。旧病院では、内科外来で実施していた自己血採血を輸血部内で行えるよう整備され、また、薬剤部で管理していた血漿分画製剤を全て輸血部に移管することにより、輸血用血液だけでなく全ての血液製剤の一元管理を達成されました。

後進の育成についても、認定輸血検査技師の資格を取得するスタッフを多く輩出しており、現在は再任用職員として若い世代の方々が伸び伸びと研究できるような環境を整え、次世代の人材育成に貢献されています。



三宅理事長（左）と安藤さん（右）



安藤さんは、今回の受章に関して「輸血部OBやスタッフと一丸となって行ってきた結果だと思っています。これまで私を支えて頂いた技師の皆さまやご指導を頂いた輸血部長など、関係者の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。」との感想がありました。



定年退職教授による桜の記念植樹



新病院を中心としたキャンパス整備事業も終盤を迎え、キャンパス周辺の環境整備を残すところとなりました。

この環境整備の一環として、平成29年3月末に定年退職を迎えられる教授の先生方を対象に桜の記念植樹を募集したところ、今井裕一先生、白井千津先生、吉川和宏先生の3名から記念植樹の申し込みを頂きました。

平成29年6月にバスターミナル西側の緑地キャンパスコートの道路沿いにソメイヨシノの若木が3本植樹され、それぞれの傍らには長年勤められ、本学に足跡を残された先生方のお名前が記された記念樹木標が設置されました。【写真】

先生方の大学・病院の発展に対する多大なご尽力の賜物のように、成長した桜が満開になる光景が思い浮かべられます。



本学では、引き続き記念植樹の募集を実施する予定であります。

アメニティ棟竣工イベント挙行

平成29年5月26日（金）午前11時からアメニティ棟において、アメニティ棟竣工イベントが挙行されました。

竣工イベントには、多くの教職員や関係者が集まる中除幕式から始まりました。三宅養三理事長を始めとする関係者の手により幕が引かれ、アメニティ棟の愛称である「立石プラザ」の看板が披露されると、拍手が沸き起きました。

続いて、3階交流ラウンジにおいて、竣工披露パーティーが執り行われ、三宅理事長から立石プラザ建築に懸ける思いや愛称に込めた期待などのあいさつがありました。

その後、2階フードコートでは、職員向けの内覧会が開催され、スガキヤ、coco壺番屋、ダウニーエクスプレスの3店舗から昼食がふるまわれ、多くの職員で賑わいました。



あいさつをする三宅理事長

最後に、佐藤啓二学長のあいさつで締め、アメニティ棟竣工イベントは盛会のうちに終了しました。

立石プラザのご案内

平成29年6月1日（木）に立石プラザ（アメニティ棟）がオープンしました。【写真】

中央棟西に完成した「立石プラザ」の愛称には、本学教職員だけではなく、患者さん、近隣の方々にも親しみを持ってご利用頂きたいという思いが込められています。

1階には、コンビニ「セブン-イレブン」と医療・介護用品ストア「アルフレッサ」、2階フードコートには、「スガキヤ」、「coco壺番屋」、「ダウニーエクスプレス（サンドウィッチ・ハンバーガー）」が出店しています。

立石プラザは、患者案内端末NAVITの通信エリア内にあるため、診察の待ち時間にご利用頂けます。加えて、2階フードコートには、バスロケーションシステムと投薬案内表示システムが設置されており、バスや薬の待ち時間にも有効にご利用頂くことができるスペースになっ



ています。

3階は、職員専用の交流ラウンジが設けられ、職員間の交流を促すとともに、会議や研修会等にも利用が可能です。

【各フロア案内・店舗営業時間】

階	店 舗	平 日	土曜日	日曜日・祝日
1 F	セブン-イレブン	7:30～19:00	9:00～17:00	9:00～17:00
	医療・介護用品ストア アルフレッサ	9:00～17:00	10:00～15:00	—
2 F	スガキヤ	11:00～18:00	11:00～17:00	—
	COCO 壺番屋	11:00～19:00	11:00～15:00	—
	ダウニーエクスプレス	10:00～18:00	10:00～17:00	—
3 F	交流ラウンジ	職員専用ラウンジ		
※<2 Fフードコートのフロア> 8:30～19:00（平日・土曜）は開錠しています。バスの待ち時間や休憩などにご利用ください。				

新病院を中心としたキャンパス整備事業へのご協力をお願い



学校法人 愛知医科大学
理事長 三宅 養三

愛知医科大学は、創立40周年を経て、教育、研究、診療の各分野において順調な発展を果たし、多くの優れた医師、看護師を世に送り出してきました。

更なる飛躍をめざし、創立40周年記念事業として平成18年から始まったキャンパス整備事業は、本丸である新病院が平成25年11月に竣工し、平成26年5月に無事開院いたしました。

新病院は、多くの先端医療機器を配置しており、手術室や重症系の病床を大幅に増床し、ドクターヘリなどを駆使した救急医療・地域医療の一層の発展に貢献します。また、従来の専門特化した医師だけでなく、幅広い疾患に対応できる総合性を持った医師の育成、研究の場としても十分な活用を図ります。

愛知医科大学は、新病院とともに更に飛躍をいたします。本学を取り巻く経営環境は改善基調にあるものの樂觀を許さない状況が続いておりますので「新病院を中心としたキャンパス整備事業」の趣旨をご理解いただき、募金に対する格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【募金要項】

1. 募金目的 新病院を中心としたキャンパス整備事業資金
2. 募金目標額 10億円
3. 募金1口の金額 10,000円
※できるだけ多数口のご協力をお願い申し上げます。
4. 募金の期間 募集中

【寄附金に対する税制上の優遇措置について】

1. 個人の場合

ご寄附をされた方は、確定申告の際、「税額控除制度」と「所得控除制度」のうち、どちらか一方の有利な制度を選択し、税制上の優遇措置を受けることができます。

<税額控除制度>

寄附金額が2千円を超えた場合、その超えた金額の40%に相当する額を所得税から控除できます。

所得税率に関係なく所得税額から直接控除されるため、多くの方において、「所得控除制度」と比較して減税効果が大きくなります。

$$\left(\text{寄附金額※1} - 2 \text{千円} \right) \times 40\% = \text{所得税控除額※2}$$

※1 年間総所得金額等の40%が限度となります。

※2 所得税額の25%が限度となります。

(例) 年収1000万円の寄附者が10万円寄附した場合

$$\left(10 \text{万円} - 2 \text{千円} \right) \times 40\% = 39,200 \text{円}$$

<所得控除制度>

寄附金額が2千円を超えた場合、その超えた金額が課税所得から控除され、所得税が減税されます。

$$\left(\text{所得金額(年収)} - \left[\begin{array}{l} \text{諸控除} \\ \text{寄附金※1-2千円} \end{array} \right] \right) \times \text{所得税率} = \text{所得税額控除額}$$

※1 年間総所得金額等の40%が限度となります。

(例) 年収1000万円の寄附者が10万円寄附した場合

$$\left(10 \text{万円} - 2 \text{千円} \right) \times 23\%※1 = 22,540 \text{円}$$

※1 平均的な世帯の諸控除額（基礎控除、社会保険料控除、扶養控除等）を想定した所得税率

2. 法人・団体の場合

<受配者指定寄付金制度>

法人・団体の寄附金は、法人税法第37条第3項第2号に基づき寄附金額全額が当該事業年度の損金に算入できます。

免税手続きには日本私立学校振興・共済事業団の「寄付金受領書」が必要となりますが、これに関する事業団への諸手続きは、本学が行います。

【問合せ先】

資料請求等募金に関するお問い合わせは、次の部署にお願いします。

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室
Tel: 0561-63-1062 (直通)
Fax: 0561-62-4866
E-mail: sikin@aichi-med-u.ac.jp

学是の制定

本学が創設された際に定められた「建学の精神」においては、「よき臨床医をつくる」、「大学自体が地域社会に役立つ」、「発展途上の医学・医療の援助を行う」の三項目を掲げ、患者からも、地域からも、国際社会からも頼りにされる医師の養成が理想とされました。「建学の精神」は不変であるものの、建学から既に50年近く経過していること、大学を取り巻く環境も大きく変動していること、医学教育分野別評価（国際認証）の受審が決定したこと等から、大学職員等にとってシンプルで、理解しやすい、共感できる「学是（基本理念）」が全学的な議論を踏まえ、平成29年3月の理事会・評議員会に提議され、更に同窓会等関係方面への説明を経て29年5月の理事会・評議員会において「学是 具眼考究」が制定されました。

ぐ がん こう きゅう 具眼考究

(三宅養三理事長直筆)

「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立った包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。さらに卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。

「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

国家試験日程のお知らせ

◆第112回医師国家試験

- ・試験日 平成30年2月10日(土)、11日(日)
- ・合格発表日 平成30年3月19日(月)

◆第104回保健師国家試験

- ・試験日 平成30年2月16日(金)
- ・合格発表日 平成30年3月26日(月)

◆第107回看護師国家試験

- ・試験日 平成30年2月18日(日)
- ・合格発表日 平成30年3月26日(月)

名鉄バス ロケーションシステムのご紹介

本学では、バスを利用する教職員や学生を始め来院患者さんの利便性向上のため、バスロケーションシステムを導入しています。

このシステムは、GPS等を利用してバスの位置情報を収集し、時刻表、現在位置、到着時刻等の情報を利用者に提供するものです。

平成29年4月1日からは、中央棟1階エントランス風除室及び2階投薬会計待合の後方にそれぞれ1台、6月1日にオープンした立石プラザ2階のフードコート出入口にも1台設置され、合計3台が稼動しています。

本学には、名鉄バスを始め、地域のコミュニティバスが多く乗り入れており、利用者は院内のサービス施設や立石プラザを利用しながら、バスを待つことが可能になりました。



立石プラザ2階にはバスロケと投薬案内表示システムが設置されています

「版画」寄贈

平成28年度看護学部卒業生からの卒業記念品として、「版画」1点が寄贈され、平成29年7月18日（火）午前10時から看護学部棟1階ロビーにおいて、除幕式が行われました。【写真】

除幕式には、佐藤啓二学長、白鳥さつき看護学部長、多喜田恵子教務学生部長などの本学役職者や看護学部の教員を始め、平成28年度卒業生が出席しました。

卒業生を代表して、西垣彩香さんから卒業記念品の贈呈があり、「苦しい思いをしたり、壁にぶつかることがあった時に、この絵を見て心を癒やしてほしいという願いを込めて選びました。」とのあいさつがありました。

引き続き、佐藤学長から、「大変素晴らしい記念品を



ご寄贈頂きありがとうございます。末永く大切に保管させていただきます。」とお礼の言葉が述べられました。

平成29年度医学部父兄後援会定期総会開催

新会長に久徳重和氏を選出



平成29年5月28日（日）午前10時から大学本館711特別講義室において、平成29年度愛知医科大学医学部父兄後援会・父兄互助会定期総会が開催されました。

平成28年度父兄後援会・父兄互助会の事業報告及び決算報告があり、平成29年度役員改選に移り、会長の久徳重和氏【写真】を始め総勢19名の新役員が選出されました。

久徳新会長のあいさつの後、平成29年度事業計画及び予算案が原案どおり承認されました。

総会終了後は、三宅養三理事長、岡田尚志郎医学部長、石橋宏之教務部長、中野隆学生部長、島田孝一法人本部長からそれぞれあいさつがありました。

なお、昼食を挟んで、午後1時から4～6学年次生のご父兄を対象に国試懇談会が開催されました。

平成29年度看護学部父母会定期総会開催

会長に森田亘氏が再選



平成29年5月13日（土）午前10時から看護学部棟N301講義室において、平成29年度愛知医科大学看護学部父母会定期総会が開催されました。

始めに、森田亘会長のあいさつの後、議事に入り、平成28年度の事業報告及び決算報告が原案どおり承認されました。

続いて役員改選が行われ、会長に森田亘氏【写真】（4学年次生父母）が再選され、また、新役員として13名が選出されました。その後は、新役員によって議事が進行

され、平成29年度の事業計画及び予算案が原案どおり承認されました。

議事終了後、白鳥さつき看護学部長及び多喜田恵子教務学生部長から父母会の協力に対する感謝の言葉があり、盛会のうちに定期総会は終了しました。

また、定期総会に引き続いて、父母と大学教員との学年別懇談会が開催され、大学側からは各学年の主任、副主任が出席して活発な意見交換が行われました。

この学年別懇談会は、父母会と大学の双方が定期的に情報交換や意見校交換を行うことにより、学生がより良い学生生活を送れるよう毎年行われています。

学長招聘講演会開催 内閣官房参与 吉村泰典先生

平成29年5月19日（金）午後5時30分から大学本館201講義室において、内閣官房参与・慶應義塾大学名誉教授の吉村泰典先生を講師にお招きし、「わが国の少子化を考える－生まれてくる子どものために－」と題し、学長招聘講演会が開催されました。【写真】

講演では、少子化問題について、「子育て」、「働き方」、「結婚・妊娠・出産」の三つの対策を年代・世代・地域別の数値データや世界各国の現況に触れながら、それぞれのポイントを分かり易くご説明して頂きました。また、産婦人科医や小児科医の必要性を強調され、安心して子育てや教育ができる社会の実現に向けた課題を広く共有する必要があるとお話がありました。

講演会には、数多くの教職員や学生の参加があり、立ち見ができるほどの盛況で、参加者は熱心に聞き入っていました。



平成29年度愛知医科大学公開講座

行ってみよう！聴いてみよう！医科大学の公開講座
～〇〇と診断されたら～

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を毎年度開催しています。平成29年度の公開講座は、テーマを「〇〇と診断されたら」と題し、9月2日（土）から毎週土曜日の計4回にわたって開催することとなりました。

受講方法及び内容等は次のとおりです。

【受講方法】

- | | | | |
|--------|------|--------|-----------|
| ・受講対象者 | 一般市民 | ・会 場 | 本学たちばなホール |
| ・募集人数 | 400人 | ・申 込 先 | 公開講座1係 |
| ・受講料 | 無料 | | |

【内 容 等】

開催日	講演時間	テーマ及び講師
9月2日（土）	10：00～12：00	サルコペニア（筋肉の衰え）と診断されたら がん、慢性疾患とサルコペニア 緩和ケアセンター 教授 森 直治 加齢とサルコペニア 緩和ケアセンター 講師 前田 圭介
9月9日（土）	10：00～12：00	2型糖尿病と診断されたら 日常生活をよく観ることと守りたいABCDE 成人看護学 教授 高橋 佳子 成人看護学 講師 森 莉那
9月16日（土）	10：00～12：00	腎臓病と診断されたら 慢性腎臓病とは？腎臓病の早期発見、治療はどうすればよいか？ 腎臓・リウマチ膠原病内科 教授 伊藤 恭彦 小児腎臓病はどのような病気でしょうか？ 腎臓・リウマチ膠原病内科 助教 畔柳 佳幸 慢性腎不全の治療にはどのようなものがあるのか？ 腎臓・リウマチ膠原病内科 教授 伊藤 恭彦
9月23日（土・祝）	10：00～12：00	認知症と診断されたら 内科の立場から 脳卒中センター 准教授 泉 雅之 精神科の立場から 精神神経科 講師 山下 功一

＝ 地域連携 ＝

長久手市大学連携基本計画の策定に向けた 第1回4大学連携学生ワーキング開催

本学は、地域医療に貢献するため、近隣市町村との連携活動に積極的に取り組んでいます。平成24年1月には、本学が立地する長久手市と包括連携協定を締結しており、本学を含む市内の4大学（愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知淑徳大学）及び長久手市で大学連携推進協議会を設置し、組織的な連携を通じた社会貢献活動にも取り組んでいます。

この度、長久手市が策定に向けて検討している「長久手市大学連携基本計画」について、市内4大学に在籍する学生の協力を得てより魅力的な基本計画にするための学生ワーキングを各大学が持ち回りで4回開催することとなり、平成29年6月28日（水）本学医学部シミュレーションセンターを会場として、第1回学生ワーキングが開催されました。【写真】

当日は、各大学から30名以上の学生や教職員が出席し、大学連携基本計画策定メンバーであるシミュレーションセンターの川原千香子講師の司会の下、長久手市にお



る大学連携が目指す課題などについて、グループワーク等を通して活発な討論が行われ、参加した学生にとっても他大学の学生との有意義な意見交換の場となりました。

本学では、今後とも同計画の策定に向けて教職員・学生が協力して取り組んでいきます。

尾張旭市健康講座開催 ～認知症予防と地域の支え合い～

平成29年6月30日（金）午後1時30分から、尾張旭市のスカイワードあさひ6階ひまわりホールにおいて、尾張旭市の健康講座が開催され、看護学部地域看護学の若杉里実教授が「認知症予防と地域の支え合い」と題して講演を行いました。

平成25年10月に尾張旭市と包括連携協定を締結して以来、今回で2回目となるこの健康講座は毎年同市が開催しているもので、先着50名の定員が募集開始後すぐに超過するほどの人気講座です。

当日は、若杉教授から認知症に関する予防法や地域での支え合いに関する事例について、色々な写真や質問を交えながら講演が行われ、認知症の早期発見の大切さや認知症の人への接し方のポイントなどを解説があり、参加者は楽しみながら健康について学べる講座となり、好評を得ました。



講演する若杉教授

今後とも本学は、各市との連携を活かしながら、地域医療の推進に寄与していきます。

会計事務担当者向けの研修会を開催

平成29年7月19日（水）～21日（金）の3日間にわたり7号館（医心館）多目的ホールにおいて、会計事務担当者研修会が開催され、各講座等の会計事務担当者63名が出席しました。【写真】

この研修会は、各講座及び事務担当部署等において研究費の会計を担当している助手、臨床技術員、事務職員を対象に適正な会計処理を行うことができる正しい知識の習得を目的として開催されたものです。

講師は、前財務・管理室長で、現在財務調整監、医学部同窓会事務長を務めている前田一成氏が務め、学校法人会計に関する基礎知識、本学の予算制度など、会計処理に必要な事柄が丁寧に説明され、出席者は改めて適正な会計処理の重要性について理解を深めました。

科学研究費補助金への申請件数増加など、本学にお



る研究活動が活性化中、それに付随して研究費の適正な会計処理は必ず求められるため、今後もこのような研修会を開催し、正しい知識の普及を推進していきます。

教授就任インタビュー



病理学講座・教授

かさい けんじ
笠井 謙次

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

近代病理学は、19世紀にドイツ人の医師Virchowによる細胞病理学、顕微鏡による形態観察から始まりましたので、今日でも「病理学=形態学」のイメージが強く、研究手法に規定された学問であると誤解されています。しかし、癌を始め、多くの疾患で遺伝子の関与が明らかになった現代の病理学は、形態学を基盤としつつも分子生物学、遺伝学、免疫学などの知見や技術を積極的に取り込み、方法論に捕らわれず科学技術の総力を用いて病の理(ことわり)を明らかにする「統合の学」となりました。更にヒトゲノム解析が終了し、オミクス解析からの膨大な情報に曝される今日、研究のみならず医療現場においても、形態情報、遺伝子・蛋白情報、臨床情報を総括し、疾患の本質を見極めた適切な病理診断が求められています。

本学病理学講座では、これまでシグナル伝達異常からみた膵臓癌・乳癌など悪性腫瘍の病態解明を進めてきました。今後は新たな視点を積極的に取り込んだ「統合病理学」を推進するとともに、臨床医学講座と協力して次世代を担う若手研究者・研究医の育成に努めて参ります。更に病理診断科とともに、ポストゲノム時代に相応しい進取な精神を持つ病理診断医の育成にも協力していきたいと考えています。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

高校時代、理数系の研究者になりたいと思っていた気質のせいか、医学部学生時代は治療よりも病気の機序に興味がありました。当時、原因遺伝子が次々と同定され始めた血液疾患に興味を持ち、卒業後血液内科を志望して全科ローテーション研修を始めましたが、いざ現場に出てみると科学的裏付けの乏しい(当時の)医療に戸惑いました。そこで、今一度腰を据えて病気を考えるべきだと思い、CPC実習などで学生時代に入浴りさせて頂いていた病理学講座の大学院に進みました。残念ながら、我々は未だ病気を完全に理解していませんが、形態から遺伝子・蛋白情報を含め、病気全体を俯瞰できる病理学という学問に魅了されていますし、今後も研究活動や病理診断を通じて多少なりとも人類に貢献できるのではと思っています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

是非学生時代に「貪欲さ」を身につけて欲しいと思います。残念ながら、今後必要とされる医学知識・技術の全てを学生時代に修得できるわけではありませんし、むしろ皆さんが卒業し医療人としての人生が始まってからの方が、多くを学ぶ必要があります。それは医療チームからであったり、専門書や学会からであったり、そして患者さんとその家族からであったりします。そうした学生時代には、質・量ともに想像できない学びを可能とするのは「貪欲さ」だと思います。新しい医療知識・技術に対してのみならず、変革する社会に対し、そしてなにより時代を超えても変わらぬ人間に対して貪欲に興味を持ち、医学・医療の将来を担って欲しいと思います。

オフショット



東京ヤクルト
応援しています

野球観戦中 (Koboパーク宮城にて)



内科学講座(腎臓・リウマチ膠原病内科)・教授

いとう やすひこ
伊藤 恭彦

— 教授就任に当たっての
抱負を聞かせてください。—

我々の診療科では、腎臓・リウマチ膠原病と幅広い診療を行っています。わが国で慢性透析療法を受けている患者総数は32万人であり、これは成人430名に対し1人に相当するcommon diseaseです。本邦の透析患者の特徴をまとめますと、(1)透析導入患者の高齢化が顕著である、(2)糖尿病性腎症が増加し、血管障害、心疾患合併患者が増加している、(3)透析技術の改良により長期生存が可能となっている半面、要支援透析患者が増加している、(4)腹膜透析を含めた在宅透析療法の支援・普及は遅れている等が挙げられます。この中で、愛知医科大学では「総合腎臓病センター」を効率よく運用し慢性腎臓病の予防、保存療法、更に血液透析のみならず腹膜透析、腎移植を患者さんに適した形で、また、高い質で提供できるように進めていきたいと思えます。リウマチ、膠原病に関しては、生物学的製剤の発達に伴い治療法が急速に進歩しております。また、慢性腎炎の治療においても同様に生物学的製剤が導入されて来ています。両疾患の治療法の確立を当科でも進め、疾患の治療成績の向上につなげていきたいと考えております。

教育では、患者さんを丁寧にみる姿勢、疑問点を教科書・文献で検索し確認をしながら臨床を進めるように指導したいと思えます。地道な診療ができるドクターを多く作ることが重要であると考えています。

研究においては、臨床疑問(Clinical Question: CQ)に対する研究をテーマに対して、疫学的にアプローチを試み、ヒト検体も用いて臨床病理学的見地から解析を試みます。そして解決できない問題点に対して、仮説を立て必要に応じて動物、細胞実験を行いたいと思えます。この中で、学内で共同研究を進めることができると願っております。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

研修医時代、循環器疾患、褐色細胞腫や原発性アルドステロン症などを含む高血圧性疾患とともに腎疾患に大変興味を持っていました。現在、33万人いる透析患者さんも当時は5万人に満たないほどでした。まさに透析療法が急速に普及する時代に、勤務していた病院から勉強について立ち上げに加わってくれないかという声を掛けて頂いたことが大きなきっかけと考えます。現在、「心腎連関」と2臓器の深い関連が言われる中、私の研究テーマの一つになっていることもこのような出発と関係があるのかもしれない。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

医学の勉強に加えて、スポーツ・読書・映画・旅行等の趣味を広げて頂きたいと思えます。また、人と出会い、多くの友達を多く持つて頂きたいと思えます。

私は、留学した時知り合ったオランダ人の同僚、友達と現在も会いに行ったり来てもらったり、またメールでもやりとりをしています。現在、過去の同僚・友人は、私の人生における宝です。



国際学会での一枚(韓国大邱)

医学部4学年次生の高橋周治くん 日本陸上競技選手権大会(男子100m)で2年連続で7位入賞の快挙！

医学部4学年次生の高橋周治くんが、平成29年6月23日(金)～25日(日)ヤンマースタジアム長居において開催された第101回日本陸上競技選手権大会(男子100m)で、2年連続で決勝に進出し、7位入賞を果たしました。(タイム10秒43, 風+0.6)

高橋くんは、日本人選手初の9秒台の期待が高まる本大会の男子100mにおいて、予選3組:2位, 準決勝1組:4位と粘り強く走り、2年連続でファイナリストになりました。

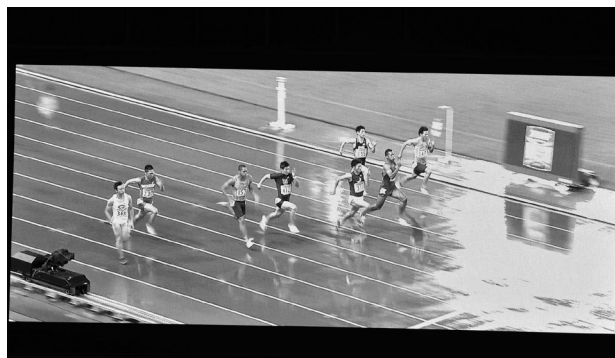
平成29年6月24日(土)午後8時30分過ぎに行われた決勝には、2万人近い観客が集まりました。レース直前に雨が降り出すコンディションでしたが、日本トップクラスの選手たちと肩を並べて走り抜け、7位と大健闘でした。

PBLやユニット講義など授業が忙しくなる中、運動療育センター(医学部附属施設)で筋力トレーニングをするなど本大会に向けて調整を進めてきました。

高橋くんからは「この度多くのご声援に後押しされ、日本陸上選手権で100m第7位に入賞することができました。ご声援は大変大きな力になりました。ありがとうございました。定期テストやCBTへの準備があった中で、日本のトップの方々と同じ舞台上で走れたことは自信になりました。これからも勉強も怠ることなく、もっと上の順位を狙えるような選手になれるよう頑張ります。」とこれからの意気込みが寄せられました。



三宅理事長, 佐藤学長, 岡田医学部長と記念撮影



高橋選手(第3レーン)
競技会場モニターを撮影

医学部成績優秀者表彰

本学医学部では、平成28年度の成績が各学年上位の者で、出席状況及び勉学態度等が他の模範となる学生に対して適用された成績優秀者に対し、本人の学習意欲の高揚を更に図るため、顕彰制度を設け表彰しています。

平成29年5月12日(金)午後5時40分から大学本館711特別講義室において、医学部学生2～6学年次の各学年5名の合計25名に対して、佐藤啓二学長から表彰状及び記念品が授与され、一人ひとりに称揚と更なる期待の言葉をかけられました。



成績優秀者の学生と記念撮影

学生表彰

平成29年3月28日（火）～30日（木）長崎大学坂本キャンパスで開催された第122回日本解剖学会総会・全国学術集会において、本学医学部5学年次生の蓬萊春日さん、4学年次生の山田崇義さん、3学年次の花林卓哉さん、中山幹都さん、原公彦さん、古屋佑夏さん、關榮茂による研究発表「WFME国際認証に向けた骨学実習の提言～アウトカム基盤型実習書『骨学のすゝめ』の作成～」が献体協会賞を受賞しました。

また、古屋さん、中山さんが「大腿部に広範な動脈変異を認めた1例－重複大動脈の解剖学的・発生学的考察－」と題した発表を行い、学生セッション優秀発表賞を受賞しました。

これを受け、他の学生の模範となるこの受賞を評価し、平成29年5月12日（金）大学本館711特別講義室において、佐藤啓二学長から6名に表彰状と記念品が贈呈されました。今後も、表彰される学生が続くことを期待します。



記念撮影
（後列山田さん、原さん、關さん、中山さん
前列花林さん、佐藤学長、岡田医学部長、古屋さん）

医学生の学会発表報告会開催

医学生の間で研究に対する意識が高まったことを受けて設けられた「医学生の学会発表に係る旅費の支給制度」を利用して、平成28年度に学会に参加し、発表を行った学生による学会発表報告会が、平成29年5月26日（金）午後5時40分から大学本館305講義室において開催されました。【写真】

この報告会は、主に低学年次生を対象に勉学に対するモチベーションを高めることを目的として実施しています。学会で発表した学生からは、具体的な発表内容や発表までの流れ、会場の雰囲気などについて写真等を使って報告されました。

報告会終了後の質疑応答では、積極的に質問が飛び交い熱気溢れている姿が見受けられ、参加した学生たちは良い刺激を受けた様子でした。



この報告会が、今後の勉学に対するモチベーションの向上及び幅広い視野を持つ医学生となるためのきっかけとなることを期待します。

熱中症予防の講演会開催

平成29年6月28日（水）午後5時30分から大学本館ちばなホールにおいて、両学部の1～4学年次生のクラブ加入者全員を対象に、医学教育センターの青木瑠里講師及び大塚製薬株式会社の石田晋也氏による熱中症予防の講演会が開催されました。【写真】

青木講師からは「熱中症のメカニズムと手当について」と題して、暑熱負荷時の生体反応等の説明があり、石田氏からは「上手な水分補給で防ごう熱中症」と題して、ミネラルを含む水分補給の重要性について講演頂きました。

今年も猛暑続きで、熱中症患者の発生がテレビや新聞紙上で報道されています。本学の学生も、8月上旬から開催される西日本医科学生総合体育大会（西医体）に向けて、昼間に練習をする時期になるため、参加した約



450名の学生も真剣に聞いていました。

この講演会で得た知識を活用して、安全かつ効率的な練習を行い、西医体での活躍を期待します。

医学部・看護学部1学年次生 医看合同シンポジウム開催

～愛知医科大学に期待すること～

平成29年7月4日（火）大学本館たちばなホールにおいて、医学部・看護学部1学年次生の医看合同シンポジウムが開催されました。これは、医学部1学年次科目「プロフェッショナルリズム1」の授業の一環としても行われました。

医学部生物学の武内恒成教授、衛生学講座の鈴木孝太教授、看護学部長で基礎看護学Ⅰの白鳥さつき教授の司会進行により、同席した三宅養三理事長のあいさつの後に長久手市長の吉田一平氏、長久手市教育委員会委員長の加藤正雄氏、日本赤十字広島看護大学長の小山眞理子氏、東京大学先端科学技術センター研究員・株式会社Studio Gift Hands代表取締役の三宅琢氏の4名を講師としてお招きして、それぞれのお立場から「愛知医科大学に期待すること」をテーマにご講演して頂きました。

吉田市長からは、長久手の街との協同を目指した環境づくりと学生がいかにそこに関わるべきかを考えさせる話について、加藤氏からはプロとして働くということにおいて必要なあいさつや意識の重要性についてお話頂きました。また、小山氏からは全国的な看護学部の現状とご自身の経歴からの看護への取り組みについて、三宅氏



積極的に質問する学生

からは産業医、眼科専門医としてのご自身の立場から、人と社会をいかに「診るか」という内容のもとIT技術を用いた今後の医療への展望についてお話頂きました。

学生からの質問は活発で途切れることなく、最後まで一方向にならない積極的な態度が見られ、ご参加頂いた方々に高い評価を受けました。

学生たちは、医療人としての一步を踏み出す上で必要な心構えや将来の医師・看護師像について考える良い機会になり、非常に有意義なシンポジウムとなりました。

看護学部 星が丘テラスに一般市民対象の健康教室を開設

看護学部では、本学の広報活動の一環として、星が丘テラスコミュニティールームにおいて、一般市民向けの「健康と看護の教室」を開設しています。

講座は少人数で開催していることから、参加者は各テーマの疑問点について、その場で質問ができるなど、とてもアットホームな雰囲気好評を得ています。

同教室は、今後も継続的に本学から講師を派遣して開催していく予定です。講座の内容及び参加申し込みは、星が丘テラスが発行する広報誌に掲載される他、同施設のホームページでも紹介されます。どなたでも参加頂けますので、お気軽にお申込みください。



【お問合せ・お申込み先】

星が丘カードエポスコミュニティールーム

電話：052-781-1266（受付時間10時から20時）

メール：hoshi-com@hoshigaoka-terrace.com

第1回 平成29年6月22日（木）「救急車ってどんな時に呼べばいいの？」

講師：黒澤昌洋講師（クリティカルケア看護学）

第2回 平成29年7月27日（木）「今日のごはんは健康ですか？」

講師：高橋佳子教授（成人看護学〔療養生活支援〕）

第3回 平成29年8月31日（木）「母乳育児が母親と児にもたらす利点を学びませんか？」

講師：小島徳子助教（母性看護学）

米国NP（Nurse Practitioner）研修報告

平成29年4月30日（日）～5月10日（水）にわたり、佐藤美佐子名誉教授と本学大学院看護学研究科高度実践看護師（診療看護師）コース修了生3名（看護学部・黒澤昌洋講師，本院・牧野悟士看護師，中京病院・伊藤美佳氏）が，米国Case Western Reserve University College of Nursing（CWRU）とCleveland Clinicを訪問しました。

今回の訪問の目的は，診療看護師コース開設時にご尽力頂いた方々への修了生の現状報告と米国でのNP活動の見学を通して，NPの役割と機能を学ぶことでした。ICUやクリニックで実践中のNPのシャドーイングを行い，急性期ケアNPやプライマリケアNPの活動を間近で見学しました。CWRUでは，米国でも1か所しかない実物のSikorsky S-76（航空搬送用ヘリコプター）を設置した航空搬送シミュレーションセンターでの緊急輸送中の重症患者シナリオによるシミュレーションを体験しました。

参加した修了生からは，「学んだことを今後の日本の



（左から，牧野氏・佐藤名誉教授・伊藤氏・Christopher Manacci氏・黒澤氏）

NPの活動に役立て，課題である日本のNP役割・機能の展開に活かしたい。」との感想がありました。

一般財団法人愛知医科大学愛恵会 教育研究奨励金研究成果報告会開催

一般財団法人愛知医科大学愛恵会においては，顕著な業績を挙げつつある若手研究者又は萌芽を生み出しつつある若手研究者に対して，その研究を発展させるために助成することを目的とした教育研究奨励金（研究助成）制度を毎年実施しており，平成28年度についても医学部及び看護学部の多くの希望者の中から，各学部において候補者が選考され，応募頂きました。一般財団法人愛知医科大学愛恵会の審査委員会において審査した結果，医学部7名，看護学部3名の教員に対し総額750万円を助成しました。

その助成を受けた研究者による「教育研究奨励金研究成果報告会」が，平成29年5月18日（木）大学本館302講義室において行われました。【写真】



発表者からは，助成金により研究が計画的に推進でき，成果も得られたという点で大変助けられ，また，今回得た研究結果を更に発展させていきたいというご意見を頂きました。

南イリノイ大学医学部短期留学体験記

本学では、南イリノイ大学（SIU）医学部と学生交換を含む包括的な相互交流を行っており、交換プログラムの一環として、臨床実習選択（Elective）コースと2学年次カリキュラム受講（PBL）コースの二つのコースへ医学部学生を派遣しています。

平成28年度のプログラムとして、Electiveコースへ平成29年1月28日（土）から3月26日（日）まで3名、また、PBLコースへ3月11日（土）から4月2日（日）まで7名の学生が留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

「SIU臨床実習選択コース」への派遣者

今回の派遣において、私はendocrinologyとclinical anesthesiaで各2週間、family and community medicineで4週間の臨床実習を経験しました。

各科とも、病棟では学生も患者さんを受け持ち、毎日の診察や検査所見から状態を評価し、治療計画を立てることが求められます。特に、endocrinologyでは、受け持ちの各患者さんのインスリン感受性から、何単位のインスリンを使用すると理想的な血糖コントロールが得られるかを予測し、毎日の変動を評価して細かな投与量変更も行いました。

実際のオーダー等ができないことを除いては、residentと同じように扱われるため、実際の働き方を肌で感じ、また、自ら主治医として患者さんに接するからこそ気づけた疑問や問題点も多かったと感じています。

南イリノイ大学の臨床実習で過ごした2か月間はとても充実した日々でした。私は、ER（救急科）とFamily Medicine（家庭医）を1か月ずつ実習させて頂きました。

ERを選んだ理由は、アメリカの医療ドラマを見て憧れていたからです。実習では、毎日多くの患者さんに問診をさせて頂きました。憧れていたドラマ中に描かれているような人間ドラマ、様々な症例や患者さんとの出会いを経験することができました。

Family Medicineを選んだ理由はアメリカの医療の基盤であると考えていたからです。留学をして、違う国の医療制度を体験できたことは私の常識を増やす良い機会となりました。

アメリカでの実習は、日本と比べてより自主性を重んじられていたため、「やらぬ後悔よりやる後悔」という言葉をモットーに、様々なことにチャレンジさせて頂きました。

例えば、家庭医・小児科では、外来の問診を1人で取り、形成外科では、全ての手術に手洗いをし縫合等を経験しました。文化が違えば、医療も日本と全く違っていて、日本とアメリカのそれぞれの良い点・悪い点を客観的に観察する良いきっかけとなりました。

また、素敵な先生方との出会いは、自分自身の考え方や目指す医師像に大きな影響を与えました。2か月間の実習生活はとても貴重で充実しており、このような機会を頂けたことに感謝しています。この留学で吸収した多くの素晴らしい経験を糧に、人として、医師として、視野を広く持ち成長できるよう、これからも日々努力したいです。

医学部6学年次生 久徳綾香



医学部6学年次生 結城七海



結城さん（右前列3人目）

医学部6学年次生 李麗佳



李さん（左から3人目）

「SIU2学年次カリキュラム受講コース」への派遣者

医学部5学年次生 岩瀬 史歩

2回目のPBLコースへの留学をさせて頂き、昨年よりもアメリカの医学生と活発に議論し知識の共有もでき、素晴らしい経験になりました。

アメリカ人の知識の豊富さや積極的な姿勢、論理的な思考力を改めて実感し、自分のモチベーションの向上につながりました。また、アメリカと日本の医療の違いを見ることで、両方の長所や短所を感じました。

他国で医学を学ぶことで、日本の医療について客観的になって理解を深めることができました。更に先生や学生などとの素敵な出会いもたくさんあり、アメリカに行ったからこそ聞けた話もあり、とても有意義で充実した3週間となりました。

医学部5学年次生 中島 文

今回南イリノイ大学 (SIU) では、主にPBLに参加し日米の違いを体感しました。本学におけるPBLではあまり議論が活発化せず、うまく機能しているとは言い難かったです。それに対しSIUでは、学生は躊躇なく発言し、議論が停滞した際には教員が適切に介入し、再び議論が動き出すという活発なものであり、このような場で得た知識や思考プロセスというのは記憶に残りやすい上、将来医師として働く際にも有益だろうと思いました。

今後は、論理的な思考力を身に付け、幅広い知識と深い理解を得ていきたいです。今回の留学では大変なことも多かったですが、現状を知り成長する良い機会となりました。

医学部5学年次生 長嶋 愛

SIUで一番刺激的だったのは、SIUの学生とのPBLでした。SIUの学生は、凄まじいスピードで、主訴から鑑別疾患を挙げていきました。私の今までの勉強法では、疾患について順に学んでいったため、疾患から症状を想起することはできても、症状から様々な領域の鑑別疾患を挙げることは難しく感じました。また、Learning Issuesを分担して調べ、次回のPBLで学生が発表していました。その発表内容は、細かな病態生理から疾患の症候を理論立てて結びつけているものでした。私も調べたことを発表する機会を頂き、その内容は鮮明に記憶に残っているため、理論立てて考えることや学習内容を発表することはとても有意義でした。このような勉強法は、膨大な医学的知識を学ぶ医学生にとって、効率的で記憶に残りやすく、これから取り入れていきたいと思いました。

医学部5学年次生 山内 桂花

私にとって2回目のSIUのPBLコースへの留学でした。PBLは、インプット (疾患について学ぶ) した情報をアウトプット (症状から疾患を想起) できる絶好の場であり、臨床に近い形で自分の知識の定着度を確かめられます。症状から疾患を考え、基礎まで戻って勉強することで、より理解が深まるのも良い点だと思います。私は昨年と比べて医学知識が増えた分、PBLでの発言の質も回数も上がり、成長を感じることができました。その反面、知識も英語力もまだまだ足りないということも改めて感じました。また、SIUの学生の積極的な姿勢やモチベーションの高さに感銘を受けました。

留学して、SIUの学生や先生方に出会うことができ、日本ではできない経験ができたことで世界が広がりました。この経験を活かし、これからも精進していきます。

医学部4学年次生 小出 里沙

SIUに留学させて頂いて、大学教育、個人の勉強方法において、日本とアメリカの違いを肌で感じることができました。日本にもアメリカにもそれぞれ良い点があると思いますが、SIUの学生と関わり、新たな視点を得られたことは、私にとってとても良いことだったと思います。

大学生生活も折り返し地点ですが、このタイミングで今自分のいる環境を客観的に見直すきっかけとなりました。

SIUの学生はとても勉強していて、知識の差をとて感じ、日本で勉強しているだけでは気づけなかった自分の足りない部分に、気づくことができました。留学から帰ってきた後の生活が大切だと思うので、SIUで得たものを自分の中で最大限利用できるように頑張りたいです。

医学部4学年次生 筆谷 堯

振り返ってみると短くも濃密な3週間であり、貴重な時間を過ごさせて頂きました。異なる環境における医学学習の形態に飛び込んでいくことで、講義やPBLにおける学生の発言や積極性に関しては、自身がこれまでに目の当たりにしてきた授業とは比較にならない程の差を感じました。

また、今回のプログラムをきっかけとして、新たな友人や知人と共に同じ空間で時間を過ごしたり、愛知医科大学に派遣されていた学生と再会することができたりしたことは、かけがえのない財産です。

将来的には、同業者になると考えられる他国の友人らの学習姿勢に触れることができ、自身の研鑽が不十分であることを改めて痛感するとともに、前進していく為の良い刺激となりました。

医学部4学年次生 室谷 太郎

南イリノイ大学 (SIU) でのPBLコースでは、討論形式の授業、講義や身体診察実習等に参加させて頂き、非常に有意義な時間を過ごしました。SIUでは、各ユニットの授業に関連した疾患のPBLによる記憶の強化を行う、非常に理に適ったカリキュラムでした。

日本の講義風景と異なり、彼らは疑問があれば講師が話している際に手を挙げて積極的に質問をします。その質問内容は非常に臨床的で深い質問であり、感心しました。臨床的思考を鍛える重要さをこの3週間で実感しました。また、この留学で自分の不足を感じる機会を多々得ることができました。

今後、この貴重な経験を活かして日々精進して参ります。



日本人セッショングループでの集合写真

大学院看護学研究科 特定行為研修セミナー開催

平成29年7月1日（土）ウインクあいちにおいて、看護学研究科特定行為研修セミナーとして「特定行為研修と医療体制のなかでの看護業務拡大」をテーマに開催しました。【写真】

第1部では、三宅養三理事長から「今後の日本の医療における看護業務拡大の必要性について」、厚生労働省看護課の瀬戸山有美氏から「看護師特定行為研修制度」についてご講演頂きました。

第2部のシンポジウムでは、「業務拡大に伴うジレンマと今後の課題」をテーマに実践者の立場からの課題を3名の診療看護師（名古屋医療センター・加藤美奈子氏、中京病院・伊藤美佳氏、本院・森一直氏）から、また、管理者の立場からの課題を看護部・小池三奈美部長から



それぞれ発表頂き、講演後は、来場された101名の参加者と活発なディスカッションが行われました。

大学院看護学研究科 特別講義開催

平成29年7月4日（火）午後6時から大学本館303講義室において、日本赤十字広島看護大学学長の小山真理子先生を講師にお招きして、「チーム医療の時代における看護学教育－看護のアイデンティティの醸成－」というテーマで、看護学研究科特別講義が開催されました。

小山先生は、看護教育は今日激動の時代にあり、パラダイムの変換期にあることを強調されました。また、大学教育は質的変換期にあり、今までの教育をどのくらい変えられるかが課題であり、地域包括ケアにおいて、あらゆる場面で実践できる看護師の育成が要であると説明がありました。チーム医療において発揮すべき看護の高い専門性とは、ジェネラリストとしての専門性であることやチーム医療において多（他）職種に伝わる言葉を持つことの重要性も説かれました。最後に、医療界には新しい専門職が次々と誕生しており、これからは看護専門職として自信と誇りを持てる人材の育成、時代の変化に



講演する小山先生

対応できる看護基礎教育の構築が求められていると結びました。

講義では、先生自身の介護体験や厚生労働科学研究費補助金の成果等を示しながら分かりやすく話され、参加した職員にとって有意義な時間となりました。

＝ 産学連携 ＝

「疼痛診療支援AIシステム」の実現に向けた共同研究開始

本学と日本臓器製薬株式会社及び人工知能エンジン「KIBIT（キビット）」を独自開発した株式会社FRONTEOの子会社で、KIBITによる医療データ解析ソリューションを提供する株式会社FRONTEOヘルスケアは、本学医学部の学際的痛みセンターの集学的診療のノウハウをKIBITに学習させ、複雑な慢性痛の診療を支援する「疼痛診療支援AIシステム」の開発に向けて共同研究を開始しました。（KIBIT：自然言語処理を中心とした株式会社FRONTEOで独自で開発した機械学習）

痛みは本来、身体の異常を知らせる重要な働きを持っていますが、一方では患者を最も苦しめる要因の一つです。打撲、骨折や内臓疾患など主として組織損傷が原因となる急性痛は、適切な治療や損傷の治癒によって早期に消失しますが、損傷が治癒しても痛みが継続するような原因が不明確な慢性痛は、長期にわたって患者の生活の質（QOL）を著しく低下させるとともに、生産性の低下や医療費の増大など大きな社会的損失に繋がります。更に、痛みの診断は、検査値などを用いた客観的評価を行うことが難しく、担当医師の経験や主観に依存しているのが現状です。特に慢性化した難治性の痛みに対しては、生物心理社会的要因を考慮した専門分野の垣根を越えた集学的診療が望まれます。

本学は、痛みにおける国内で初めての集学的な治療・研究施設「学際的痛みセンター」を創設し、診療部門に痛み専門の整形外科医、麻酔科医、精神科医、歯科医、看護師、理学療法士、臨床心理士らを配置して慢性痛の集学的診療に取り組んでいます。本院痛みセンターでは、年間延べ7千人近くに治療を提供し、これまで長期にわたって改善されなかった痛みが改善するなどの成果を上

げており、集学的医療としての様々なノウハウが蓄積されています。

一方で、集学的診療の課題として、一人の患者を診るための時間と人員コストが非常にかかることが指摘されており、超高齢・ストレス社会の日本で今後も予想される慢性痛患者数の増加を考慮すると、効率的かつ適切な集学的診療を行える画期的なシステムの開発が必要となります。そこで今回の共同研究では、痛みセンターの集学的慢性痛診療チームの診断・治療スキルをAIに学習させることで、痛みの原因が不明瞭で、慢性化したあるいは慢性化する恐れのある患者に対して的確な診断を行い、いち早く痛みの改善に繋がる適切な治療に移行するための支援システムの構築を目指します。

共同研究の第一段階として、痛み患者の過去のカルテ情報における特徴をKIBITに教師データとして学習させ、KIBITの解析による痛みの重症度判定と集学的診療チームの判定結果との相関性・同等性を指標に学習アルゴリズムの最適化を検討します。

本研究では、愛知医科大学が秘匿化・匿名化した痛み患者のカルテ情報の特徴及び集学的診療ノウハウを提供し、FRONTEOヘルスケアはKIBITによる解析を担当、日本臓器製薬は新事業分野として研究を援助・支援します。本研究は1年を目途に完了し、診断支援機器としての製品化へ向けた開発に進む予定です。

製品化後は、「疼痛診療支援AIシステム」を国内の診療所や病院などへ広く普及を推進し、多くの痛み患者に対する効率的かつ的確な診療支援を可能とすることで患者のみならず、医療従事者の負担軽減による医療経済的なメリットも実現できることを目指します。



従来の痛みの診療



- ・痛み、特に慢性痛の治療には、医療チーム（異なる専門領域の医師、看護師、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、社会福祉士などによる）が痛みを身体的、精神的、社会的な側面から集学的・総合的に診療することが重要。
- ・集学的診療には時間を要し、実施可能な医療機関は限られることが大きな課題。

「疼痛診療支援AIシステム」が導入された場合



- ・集学的医療チームの診療ノウハウを学んだKIBITによる「疼痛診療支援AIシステム」を用いることで、一般的な病院や診療所でも痛み患者さんを効率的かつ的確に診療可能。
- ・患者さんのQOLの向上のみならず、医療スタッフの負担軽減にも貢献。

緩和ケア研修会開催

緩和ケア研修会は、厚生労働省が定めるがん対策推進基本計画の「すべてのがん診療に携わる医師が緩和ケアについての基本的な知識を習得すること」の目標の下で制定された「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に則って開催される研修会です。2日間12時間以上にわたるプログラムで、緩和ケアの基本的な考え方やコミュニケーション技術などを講義とグループワーク、ロールプレイを通じて、コンパクトに修得できるように行われます。

本院の緩和ケア研修会は、平成21年から年1回開催されるようになりました。しかし、学内修了者数は平成27年度末までに76名と少なく、修了者数を増加させるため、平成28年度は6回の研修会を開催し、平成29年度は7回を予定しています。昨年度から多くの先生方に受講して頂き、平成29年7月末時点で学内修了者は400名弱と大幅に増加しております。また、受講された先生方からは「症状緩和の基本が学べた。」、「ロールプレイを通じコミュニケーションの基本が習得できた。」などの高評価を得ています。

今まで緩和ケアはがん対策の中心として、普及・啓発



ロールプレイを通じて、基本的な考え方を学ぶ

が行われてきました。しかし、超高齢化社会を迎えるわが国では、がんにとどまらず、様々な疾患に対して緩和ケアが求められるようになっており、今後広い疾患領域で普及・啓発が行われることとなっています。

これからも緩和ケアセンターを中心に愛知医科大学病院あるいは近隣の先生方にとって、有意義な研修会となるように努めて参ります。

(緩和ケアセンター・教授 森 直治)

病院公開講座&病院食の試食会開催

平成29年7月29日(土)中央棟2階において、近隣住民の方々を対象に、本院栄養部主催による公開講座及び病院食の試食会が昨年に引き続き開催されました。

食事と健康についてテレビなどで見ない日がないほど関心が高い話題でもあって、当日は多くの方に参加頂きました。

公開講座では、「うす味のすすめ～生活習慣病の予防～」と題して、本院栄養部の管理栄養士が減塩について講演を行い、71名の方が参加されました。講演後の質疑応答では、たくさんの質問があり、関心の高さが窺われました。

同日開催された病院食の試食会には46名、栄養相談には11組16名が参加され、「タンドリーチキン」や「拌三絲(ばんさんすう)」などを試食頂きました。減塩食をおいしくするコツは、単純に味を薄くするのではなく、香辛料や香り野菜での味付けの工夫が大切です。

参加された方々からは「美味しい。」との意見が多く、アンケートでも9割以上「また参加したい。」との回答が寄せられました。次年度も楽しんで参加して頂ける内容での公開講座の開催を目指していきます。

栄養部では、今後とも患者さんの意見を大切にしながら、スタッフ一丸となって更に美味しい病院食を追求して参ります。



講演会



病院食の試食会

医療安全講演会開催

平成29年6月12日（月）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、医療安全講演会が開催されました。

講演会では、「終末期の倫理：DNARを考える」と題して、静岡県立総合病院の循環器内科、安全衛生監兼集中治療センター長の野々木宏氏にご講演を頂きました。

今回の講演では、医療安全における終末期の取り組みとして、院内心停止とRRS（急変対応システム）とDNARの考え方について、丁寧に分かりやすく説明して

頂き、時折静岡の特産物の話題などを交え、会場を和らげる演出に来場者は聞き入っていました。

本院の「DNAR」については、医療安全管理マニュアルにガイドラインの記載がありますが、倫理委員会等の承認を得ていないことを厚生労働省の立入検査でも指摘を受けています。今回の野々木氏の講演は、ガイドラインの見直しと全病院職員の「DNAR」に対する共通の認識を持つことができる大変貴重な講演になりました。

@FM(エフエム愛知) ラジオ出演のお知らせ

平成29年4月から来年3月までの1年間、@FM（エフエム愛知）で放送中の「HealthyLife Essence」（提供：協会けんぽ愛知支部／パーソナリティ：川本えこ氏）に本学の教職員が連日出演しています。

同番組は、「ちょっとした生活習慣の改善で健康に」をキーワードに日曜日13時55分～及び月曜日18時55分～

毎週放送されています。放送では、月ごとに設定されたテーマの下、身近な病気や症状を専門医などが病気のメカニズムや予防法などについて分かりやすく解説していますので、ぜひご視聴ください。

今年度上半期のテーマや出演者は次のとおりです。

月	テーマ	出演者
4月	長引く慢性的な咳について	馬場研二教授（特任）（メディカルクリニック長）
	喫煙による様々な影響について	
5月	逆流性食道炎について	河村直彦講師（消化管内科）
	過敏性腸症候群について	
6月	特定健診の結果～知っておいて欲しいこと	河合聖子助教（呼吸器・アレルギー内科）
	食中毒について・小児感染症について	
7月	熱中症について	馬場研二教授（特任）（メディカルクリニック長） 宮田聡子助教（皮膚科）
	紫外線（日焼け）について	
8月	薬について（ジェネリック医薬品を中心に）	川澄紀代室長（メディカルクリニック薬剤科） 河村直彦講師（消化管内科）
	大腸がんについて	
9月	アレルギー性鼻炎について（舌下免疫療法を含む）	有元真理子助教（耳鼻咽喉科） 河合聖子助教（呼吸器・アレルギー内科）
	肺結核と非結核性抗酸菌症について	



総合学術情報センター（図書館部門） 著作権セミナー開催

平成29年7月19日（水）マルチメディア教室において、図書館利用講習会「著作権セミナー」が開催されました。講師にTMI総合学術情報センター法律事務所弁護士の柴野相雄氏をお迎えし、著作権法の基礎を中心にご講演頂き、教職員25名が参加しました。【写真】

教材作成に関わるポイントとして「引用」と「学校その他の教育機関における複製等」について解説を頂くとともに、事前に参加者から寄せられた質問や会場での質問「著作物の図や表を加工して利用する場合」、「e-learningを行う場合の注意点」、「講義で使用した教材をeポートフォリオ等サーバー上にアップロードする場合」に対して、弁護士の立場から対応について回答頂きました。



また、総合学術情報センター（図書館部門）は、著作権について講師からの推薦図書を所蔵しておりますので、ぜひご活用ください。

総合学術情報センター 英語論文執筆セミナー・eポートフォリオ勉強会開催

若手研究者の支援及びICT教育の充実に向けて、平成29年7月27日（木）マルチメディア教室において、総合学術情報センター主催で「英語論文執筆セミナー」（国際交流センター共催）及び「eポートフォリオ勉強会」が開催されました。講師には、東京医科大学医学教育分野のR.ブルーヘルマンズ准教授をお迎えし、英語論文執筆において注意すべき点、東京医科大学におけるICT活用教育についてご講演を頂きました。

英語論文執筆セミナーでは、ガイドラインを熟読し、忠実に従うことが重要であるとし、バンクーバースタイルといった統一規程や各雑誌における投稿規程について詳しく解説がありました。また、英語論文において気を付けるべき英文のポイントや論文投稿に当たってカバーレターの書き方、査読者のコメントにどう回答すべきかなどの説明がありました。

また、「ガイドラインに従っていない」というのが最もよくある査読コメントであり、論文執筆を行う上で重要なポイントとなると強調されました。

eポートフォリオ勉強会では、東京医科大学eラーニングシステム「e自主自学」を構成するLMS、eポートフォリオ、eコンテンツの三つの機能について具体的に説明があり、それぞれの秘訣・課題やICT活用教育を推進させる重要な点についての説明がありました。質疑応答では、LMSへの登録担当者や著作権、教材の共有方法、データポータビリティ権などの質問が多数ありました。

総合学術情報センターでは、今後も定期的に各種セミナーを開催する等、教職員を様々なサポートをしていきます。



英語論文執筆セミナー



eポートフォリオ勉強会

AIを活用した業務改革システムの勉強会開催

事務部門では「働き方改革」推進の一環として、平成29年6月28日（水）大学本館201講義室において、最先端の業務システムの勉強会を開催し、AI（人工知能）を搭載した業務システム「HUE」について、株式会社ワークスアプリケーションズから紹介がありました。

【写真】

勉強会実施後のアンケートでは、「現状業務で効率化したい点があるかどうか」という問いに、「すぐに効率化したい」、「いつかは効率化したい」が97%を占め、参加者からは「入力業務や定型業務の効率化が期待できる。」「書類の点検業務において、学習機能が利用できそう。」といったAIに期待するコメントがありました。

ITの積極活用の必要性については、95.1%が「そう思う」と回答している一方で、「AIで業務を効率化できるかどうか」という問いに「そう思う」と答えた方は75%に留まり、「AIのすごさはわかるが、具体的にどのような業務改善につながるのかが見えにくい。」「もう少し幅広い分野での具体例が見たい。」といった意見があり



ました。

大学の教育・研究の高度化・複雑化に伴い、事務職員がこれまで以上に積極的な役割を担っていくためにも、最先端のシステムを学ぶ機会を含め、継続的な業務改善への取り組みが必要となっています。

SD研修

アドラー心理学に学ぶコミュニケーション研修実施

平成29年4月から施行された大学設置基準では、全ての大学に教職員を対象としたSD（スタッフ・ディベロップメント）の機会を設けることが義務化され、本学においても教職員の組織運営に必要な能力・資質の向上を図るためのSD研修を企画、実施しています。

今回実施した「アドラー心理学に学ぶコミュニケーション研修」には、総勢413名の教職員が参加し、自分や他者に対する勇気づけの方法を学習しました。本研修は2日間にわたって開催され、1回目の研修で学んだことを業務で活かすよう各自目標を立て、2回目の研修時に課題へ取り組んだ結果の振り返りを行うことで理解を深めました。【写真】

受講者からは「セルフコントロールは自分だけでなく周囲にとっても素敵なことだと感じた。」「自分で考え、それをシェアでき、他人の意見を聞くことができ楽しかった。」「後輩指導、子育て、患者指導にも役立つ。」などの感想がありました。

また、管理監督者を対象として「アドラー心理学に学ぶマネジメント研修」も実施し、管理職を中心に66名の



教職員が参加しました。研修では、「組織運営・部下育成」をテーマに、アドラー心理学に基づいた職場での良い人間関係・信頼関係のマネジメント方法を学習しました。

受講者からは、「自分が悩んできた内容が多く詰まっていた。研修に参加できて良かった。」「相手は変えれない、自分が変わる勇気づけを学んで、職場全体の風土を変えたい。」「他の教職員や上司にも同じ研修を受けてもらい、共通の認識をもった方がより良い職場環境になると思う。」といった感想がありました。

○「アドラー心理学に学ぶコミュニケーション研修」
日程：第1回 6月16日（金）、21日（水）、22日（木）
第2回 7月11日（火）、12日（水）、13日（木）
内容：各日90分の講義を3回、計9セッションを実施

○「アドラー心理学に学ぶマネジメント研修」
日程：6月15日（木）、23日（金）
内容：各日9時～17時の講義



献血ご協力ありがとうございました

平成29年6月16日（金）大学本館1階ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いします。

今回は、平成30年1月頃に予定していますので、ご協力よろしくをお願いします。

夏の団体献血

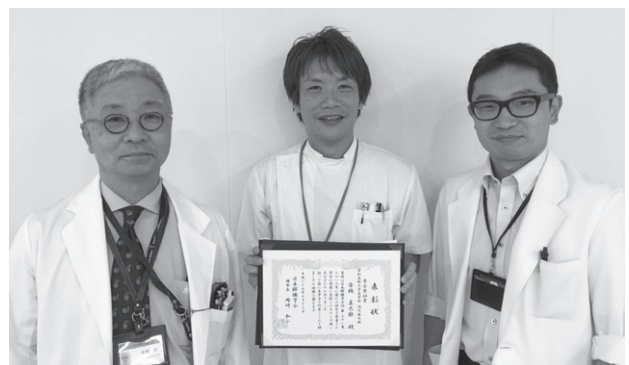
・献血受付数	・36名
・献血できた方	・33名 (400ml・30名)
・献血できなかった方	・3名

消化器外科 倉橋真太郎助教 平成28年日本膵臓学会誌「膵臓」 学会奨励賞受賞

消化器外科の倉橋真太郎助教が、平成29年7月13日（木）ウェスティン都ホテル京都で開催された第48回日本膵臓学会大会評議員会において、学会奨励賞を受賞しました。

これは、学会雑誌「膵臓」に掲載されたその年の論文の中から、倉橋助教が発表した「膵原発髄外性形質細胞腫の1切除例」が学術的に高く評価され、優秀論文として選定されたものです。

表彰を受けた倉橋助教から「受賞論文は、術前診断が困難な症例に対し、積極的な外科切除を施し良好な結果を得られたもので、手術術式の選択を中心に考察したものです。この受賞を糧に、今後も日々一層の努力をし、診療に当たっていきたいと思います。論文作成に当たり、多大なるご指導を頂きました佐野力教授、駒屋憲一講師に深く御礼申し上げます。」との感想がありました。



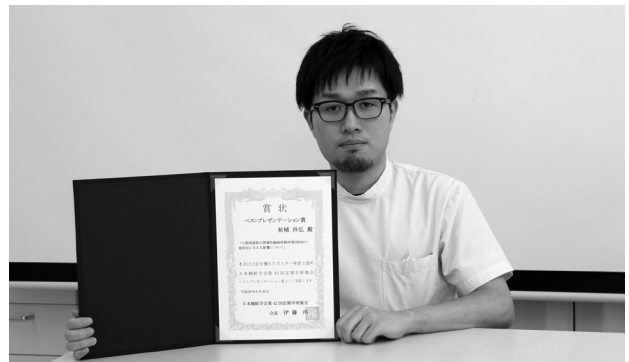
指導頂いた佐野教授（左）、駒屋講師（右）と 中央：倉橋助教

歯科口腔外科 柘植祥弘助教 (医員助教)
日本睡眠学会第42回定期学術集会
ポスター発表ベストプレゼンテーション賞受賞

歯科口腔外科の柘植祥弘医員助教【写真】が、平成29年6月29日(木)・30日(金)パシフィコ横浜で開催された日本睡眠学会第42回定期学術集会において、ポスター発表ベストプレゼンテーション賞を受賞しました。

同賞は、同会で発表されたポスター発表演題の中から、柘植医員助教が発表した「口腔周囲筋が閉塞性睡眠時無呼吸(OSA)の重症化に与える影響について」が学術的に高く評価されたものです。

表彰を受けた柘植医員助教から「栄えある賞を頂き、大変光栄に存じます。ご指導頂きました睡眠科の塩見教授、歯科口腔外科の風岡教授を始め、関係各位の皆さまに改めて御礼申し上げます。今後は、両科の更なる飛躍、発展のため臨床、研究に精進して参りたいと思います。ありがとうございました。」との感想がありました。



中央放射線部 中村勝技師長
厚生労働大臣表彰受賞

本院中央放射線部の中村勝技師長【写真】が、平成29年6月2日(金)パレスホテル東京で開催された公益社団法人日本診療放射線技師会創立70周年記念式典において、厚生労働大臣表彰を受賞されました。

これは、長年にわたって診療放射線業務を通じて国民医療の発展に寄与した功績が評価されたものです。

受賞された中村技師長から「このような荣誉ある賞を受賞できたのは、ひとえにスタッフを始め、愛知県や全国の診療放射線技師会の仲間の支援、協力があったから

こそと深く感謝しています。今後も微力ながら、患者さんや全国の診療放射線技師、そして、愛知医科大学のために力を尽くしたいと思います。」との感想がありました。



看護部 小池三奈美部長
平成29年度日本看護協会会長表彰受賞

看護部の小池三奈美部長【写真】が、平成29年6月7日(水)幕張メッセにおいて開催された平成29年度日本看護協会通常総会において、日本看護協会会長表彰を受賞されました。

これは、日本看護協会会員として多年にわたり看護業務に精励され、協会活動に大きく貢献された功績が評価されたものです。

表彰を受けた小池部長から「この度、日本看護協会会長表彰という大変光栄な表彰を頂くことができました。これも多くの皆さまからのご支援の賜物と感謝いたします。今後も日本看護協会の会員として看護の発展に努め



ていきたいと思っています。今後も宜しくお願いいたします。」との感想がありました。

保健管理センター 松橋かおる看護師 平成29年度愛知県看護功労者表彰受賞

保健管理センターの松橋かおる看護師【写真】が、愛知県看護功労者表彰を受賞されました。

これは、看護職員として長年業務に従事し、顕著な功績のあった者に授与される賞で、平成29年5月12日（金）ウインクあいちにおいて開催された愛知県看護大会の席上で、表彰式が行われました。

表彰を受けた松橋看護師から「看護職の道を選んで四十年余り、このような榮譽を受賞できたのも、先輩を始め同僚や後輩の皆さまの協力や温かい励ましがあつたのことに感謝いたします。更には家族の理解と何よりも健やかな体に産んでくれた両親に感謝しています。」との感想がありました。



施設・建設室 伊藤聖志主査 一般社団法人愛知県危険物安全協会連合会 平成28年度優良会員表彰受賞

施設・建設室の伊藤聖志主査【写真】が、平成29年5月25日（木）長久手市消防本部で開催された平成29年度長久手市危険物安全協会定期総会において、一般社団法人愛知県危険物安全協会連合会平成28年度優良会員表彰（個人表彰）を受賞しました。

この賞は、危険物関係施設の管理が優良で他の模範となる事業所、勤務成績が極めて優秀な危険物取扱者及び同会に功労のあった者に対して表彰が行われるもので、伊藤主査はボイラー及び危険物施設の保守管理に従事し、本学の危険物保安管理者として法を遵守し、勤務態度も極めて優良でかつ部下への的確な指導に努めてきたことが評価されたものです。

受賞された伊藤主査から「この度は榮譽ある賞を頂き光栄に思います。これは日々の保守管理業務の中で、地道に安全管理を遂行してきた結果と感じています。これ



もまた皆さま方のご指導とご協力があつてのものと感じております。今後も、安全安心な危険物施設の管理を進めていきたいと思つています。」との感想がありました。

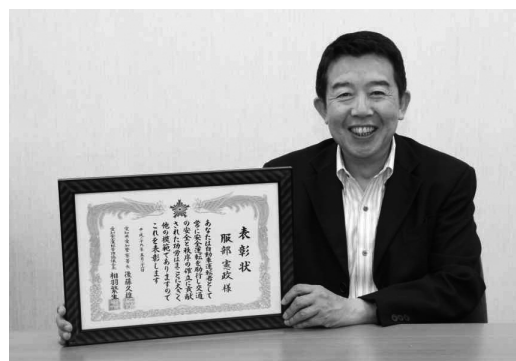
優良自動車運転手表彰

毎年春に模範的な運転を行い、交通安全の確保に貢献している優良自動車運転手に対して、愛知警察署長、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から表彰が行われています。

今年、管財・契約室の服部憲政室長【写真】が、平成29年5月26日（金）に表彰を受けました。

この表彰は、本学駐車場の運用・管理を統括する部署の長として、学生及び教職員の安全運転指導に尽力し、自らも安全運転を心掛け、長年無事故・無違反が続いていることが評価されたものです。

表彰された服部室長から「優良自動車運転手表彰を受けることができ大変光栄です。これは、日頃交通安全、駐車場管理等と自動車に関する業務を行ってきた管財・契約室を代表して頂いたものと思つております。私自身は、若い時に大きな事故を起こしました。それから25年



以上、その時の気持ちを胸に刻み、安全運転に心掛けてきました。皆さんも交通事故には十分気を付けてください。」との感想がありました。

第1回主催公演事業

一般財団法人愛知医科大学愛恵会では、入院・通院患者さんを始め、地域の方々へのサービス事業の一環として、これまで定期的に主催公演事業を開催しています。今回は、平成29年6月1日（木）のアメニティ棟「立石プラザ」オープンに合わせて、アメニティ棟オープン記念・第1回主催公演事業として開催されました。

初めての試みとして、ステージ司会にエフエム愛知のパーソナリティー他、多数のテレビ・ラジオにレギュラー出演中の山口千景さんを招いて、アメニティ棟やイベント内容の紹介などをお願いしました。

中央棟2階おくすり窓口において開催されたイベントでは、初めになっきー☆バルーンショーが行われ、ピエロに扮したなっきーさんがコミカルかつユーモアたっぷりに風船を使ったショーを繰り広げ、できあがった作品を参加したお子さんにプレゼントするなど大変盛り上がりました。その後も立石プラザにおいて、子供たち一人ひとりに作品をプレゼントして、会場を盛り上げました。続いて、2年前の記念事業の出演に引き続き2度目となる、全盲の歌姫・若渚さんとピアニストの白神由美子さんによる透き通る歌声、素晴らしい演奏によるコンサート、三味線奏者の山口晃司さんとパーカッションの須崎貴裕さんによる迫力ある演奏と軽妙なトークで、大盛況の内に終了しました。

体験教室では、アロマ“ハンドマッサージ”，プリザーブドフラワー教室、お茶の美味しいいれかた教室がそれぞれ開催され、どの教室も多くの参加者で賑わい、いずれも好評でした。

また、恒例となったJAあいち尾東の全面協力を得て「産直（野菜）販売」が立石プラザ前で行われ、こちらも大変好評でした。



ステージ司会の山口千景さん



なっきー☆バルーンショー



若渚 & 白神由美子コンサート



プリザーブドフラワー教室



産直（野菜）販売

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



中野 雄介

学位授与番号 甲第497号

学位授与年月日 平成29年6月8日

論文題目：「Impact of Continuous Administration of Tolvaptan on

Preventing Medium-Term Worsening Renal Function and Long-Term Adverse Events in Heart Failure Patients with Chronic Kidney Disease (慢性腎臓病を合併する心不全患者における中期的腎機能増悪および長期的有害事象の予防に対するトルバプタン継続投与の効果)」



丹羽 亨

学位授与番号 乙第385号

学位授与年月日 平成29年7月13日

論文題目：「Predictability of tricuspid annular plane systolic excursion for the

effectiveness of tolvaptan in patients with heart failure (心不全患者における三尖弁輪部収縮期移動距離のトルバプタン有効性予測能)」

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・ 第60回日本糖尿病学会年次学術集会
- ・ 第280回日本皮膚科学会東海地方会
- ・ 第20回記念日本医学英語教育学会学術総会

【開催日】

- 平成29年5月18日(木)～20日(土)
- 平成29年6月18日(日)
- 平成29年7月22日(土)

【会長等】

- 中村 二郎
- 渡辺 大輔
- 福沢 嘉孝

第60回日本糖尿病学会年次学術集会

平成29年5月18日(木)～20日(土)名古屋国際会議場をメイン会場として、第60回日本糖尿病学会年次学術集会を内科学講座(糖尿病内科)の主催で、「糖尿病学の夢の実現へ：未来への架け橋」をメインテーマとして開催しました。また、「The 9th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes (AASD)」と「第4回肝臓と糖尿病・代謝研究会」も同時開催されました。

内科学講座(糖尿病内科)・教授 中村 二郎

特別講演では、2014年にノーベル物理学賞を受賞された名城大学大学院理工学研究科の赤崎勇終身教授と一般社団法人日本糖尿病学会の門脇孝理事長にご講演頂き、日本全国及びアジア各国から糖尿病学と関わりのある研究者、臨床医、医療スタッフ14,500余名の参加者のもと、無事盛会裏に終えることができました。

本年次学術集会の開催に当たり、ご支援頂きました関係各位に心より御礼を申し上げます。

第280回日本皮膚科学会東海地方会

皮膚科学講座・教授 渡辺 大輔

平成29年6月18日（日）名古屋プライムセントラルタワーにおいて、第280回日本皮膚科学会東海地方会を皮膚科学講座の主催で開催しました。

本学会は、日本皮膚科学会に所属する東海三県エリアの皮膚科医が集まる学会で、愛知医科大学を含む6大学（名古屋大、名古屋市立大、藤田保健衛生大、岐阜大、三重大）が交代で当番校として運営を行い、年4回開催されています。

今回の学会には合計252名が参加され、ランチョンセ

ミナーでは、京都大学皮膚科講師の本田哲也先生から「食事由来脂質から考える乾癬病態」、国際医療福祉大学皮膚科教授の菅谷誠先生から「アトピー性皮膚炎ガイドラインとアドヒアランス」の講演がありました。また、29題の一般演題が発表され、活発な討論の下盛会に終了いたしました。

最後に、本学会の開催にご支援とご協力を頂いた本学関係者の皆さまに心より御礼を申し上げます。

第20回記念日本医学英語教育学会学術総会

先制・統合医療包括センター・教授 福沢 嘉孝

平成29年7月22日（土）・23日（日）オルタドール・サロン（名古屋ビルヂング）において、第20回記念日本医学英語教育学会学術総会を開催しました。

本学会は、2日間にわたり熱いディスカッションがなされ、連日タイトなスケジュールの中、応募演題31題（英語・日本語）、参加者260余名と非常に盛会裏に終了することができました。

応募演題以外で特に注目すべきセッションは、初日に行われたパネルディスカッション「卒前の医学英語教育の質保証を目指して」及び著名人による三者対談「日本の医学教育のグローバル化の流れの中での医学英語の書き方」、2日目の特別講演「世界一流誌に採用される論文の書き方」、そしてシンポジウム「医学英語教育を介しての国際的医療人養成のknow-how (tips)」の3講演でしたが、会場はいずれも満席で、最後まで熱心でレベルの高いディスカッションが繰り広げられ、会場の皆さまからも好評を博しました。

初日の三者面談では本学を代表して、三宅養三理事長にもご参加頂き、今後加速される、よりグローバルな社



会・医療環境を乗り越えるためにしっかりと母語（日本語）教育に立脚した上でなら、医学英語は非常に有用なツールの一つになり得るとの非常に貴重なコメント頂きました。

末筆となりましたが、本学術集会開催に当たり、多大なるご支援とご協力を賜りました学内関係者（愛漢勉強会関連の医学生を含む。）の皆さまに心より厚く御礼申し上げます。

研究助成等採択者

○理科研株式会社

平成29年度生命科学研究助成

●氏名 伊藤卓治（内科学講座（神経内科）・特別研究助教）

研究題目 疾患特異的iPS細胞由来神経・筋ストローク破綻による神経変性疾患発症機構の解明

助成金額 300,000円

○公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金

平成29年度研究助成

●氏名 稲熊真悟（病理学講座・講師）

研究題目 PD-L1を高発現する大腸癌細胞株の高悪性形質を規定するシグナル経路の同定・解析

助成金額 1,000,000円

平成29年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新学術領域研究 (研究領域提案型) (補助金)	岩瀬敏 医学部 生理学, 教授(特任)	4,000 (継続)	1,200	自律神経系変容と宇宙デコンディショニングへの影響および 対抗措置の研究
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	2,700	810	細胞外環境制御による脳・脊髄損傷後の再生治療とその機能 回路回復
〃	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	1,700	510	iPS細胞由来ニューロンでみられる異常タンパク凝集に依存 しない早期病態の解明
基盤研究(B) 一般 (補助金)	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	(繰越)	0	不完全なりプログラミングとゲノム不安定性を指標としたヒト iPS細胞の品質評価
〃	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	4,400 (継続)	1,320	不完全なりプログラミングとゲノム不安定性を指標としたヒト iPS細胞の品質評価
〃	中野隆 医学部 解剖学, 教授	1,000 (継続)	300	フィジカルアセスメントに繋がる総合的解剖学実習モデルの 構築を目指して
〃	小林孝彰 医学部 外科学(腎移植外科), 教授	4,600 (継続)	1,380	移植腎グラフトの長期生着をめざした慢性拒絶反応に対する 予防・先制医療の導入
〃	菊地正悟 医学部 公衆衛生学, 教授	4,600	1,380	腸肝型ヘリコバクター感染と胆道がん・膵がんリスク
〃	内藤宗和 医学部 解剖学, 教授	1,900	570	高圧メディカルガスを用いた新しい臓器保存法の確立
基盤研究(B) 海外学術調査 (補助金)	伊藤誠 客員教授	3,400 (継続)	1,020	省力的空間分布把握システムによる糸状虫症根絶の確認と再 燃の早期発見
基盤研究(C) 一般(基金)	稲熊真悟 医学部 病理学, 講師	(延長)	0	新規シグナル経路GLII-CXCR4による肉腫悪性形質制御メカ ニズムの解析
〃	大須賀浩二 医学部 脳神経外科学, 教授(特任)	(延長)	0	慢性硬膜下血腫被膜の自然退縮におけるapoptosisの役割
〃	住友誠 医学部 泌尿器科学, 教授	(延長)	0	去勢抵抗性前立腺癌のcholesterol代謝経路解明による個別化 医療の確立
〃	鈴木佳克 医学部 周産期母子医療センター, 准教授	(延長)	0	妊娠高血圧症候群の発症予知・予防ならびに降圧管理に関す る総合的研究
〃	小川徹也 医学部 耳鼻咽喉科学, 教授(特任)	(延長)	0	頭頸部がん治療における正確かつ迅速な抗がん薬感受性診断 法の確立
〃	白鳥さつき 看護学部 基礎看護学I, 教授	(延長)	0	看護職者の職業被ばくに関する知識および防護行動実態調査 と安全教育プログラムの開発
〃	久留友紀子 医学部 外国語, 准教授	800 (継続)	240	社会的コンテキストの中にあるEFLライティング・タスクの開 発
〃	鈴木将之 医学部 先端レーザー医学寄附講座, 准教授	900 (継続)	270	分子構造分析を目指したファイバーレーザー励起中赤外光に よるリアルタイム分光

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	西 山 毅 医学部 公衆衛生学, 准教授(特任)	300 (継続)	90	全ゲノム関連解析およびそのメタアナリシスによる量的自閉症形質座の確証
〃	佐 藤 純 客員教授	1,200 (継続)	360	気象病発症メカニズムにおける気圧感受機構の解明—動物実験と臨床実験の連携研究—
〃	神 奈 木 玲 児 客員教授	900 (継続)	270	低酸素誘導因子HIFによる糖鎖関連遺伝子の転写誘導とその病態的意義の総合的解明
〃	笠 井 謙 次 医学部 病理学, 教授	600 (継続)	180	新規転写抑制因子標的遺伝子群から見た非浸潤性乳癌進行の分子病理学的機構
〃	岩 崎 靖 加齢医学研究 准教授	1,300 (継続)	390	クロイツフェルト・ヤコブ病の嗅球および嗅粘膜におけるプリオン蛋白沈着の検討
〃	鈴 木 孝 太 医学部 衛生学, 教授	1,200 (継続)	360	胎児期から出生後早期の環境が、小児肥満、成人の生活習慣病に与える影響の疫学的検討
〃	梅 村 朋 弘 医学部 衛生学, 講師	1,100 (継続)	330	バングラデシュ南部デルタ地帯における塩害に関する調査
〃	小 川 匡 之 医学部 法医学, 講師	1,000 (継続)	300	自然毒投与ラット体内の代謝プロファイリング解析
〃	伊 藤 恭 彦 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 教授	1,300 (継続)	390	腎疾患領域におけるリンパ管新生の観点からの病態解明とその治療戦略
〃	高 村 祥 子 医学部 感染・免疫学, 教授	700 (継続)	210	B細胞性リンパ腫の新規制御機構
〃	都 築 忍 医学部 生化学, 教授(特任)	1,200 (継続)	360	ハイスループット系によるリンパ腫・骨髄腫の成立機構の解明
〃	高 見 昭 良 医学部 内科学(血液内科), 教授	1,100 (継続)	330	造血幹細胞移植関連遺伝子多型の機能解析とゲノム標的治療の探索
〃	垣 田 博 樹 医学部 周産期母子医療センター, 講師	1,100 (継続)	330	新生児低酸素性虚血性脳症に対する脳低温療法におけるグリアに注目した新規脳保護療法
〃	武 藤 潤 医学部 皮膚科, 講師	1,100 (継続)	330	ヒアルロン酸による皮膚バリア調節機構の解明とアトピー性皮膚炎の新規治療法の開発
〃	畑 山 直 之 医学部 解剖学, 助教	1,100 (継続)	330	小腸移植における高圧ガス保存法の応用：再灌流障害軽減と免疫抑制作用の可能性
〃	宮 地 茂 医学部 脳血管内治療センター, 教授(特任)	700 (継続)	210	血管内治療用ロボットの開発
〃	若 尾 典 充 医学部 脊椎脊髄センター, 講師	1,000 (継続)	300	骨強度評価を用いた癌骨関連有害事象発生リスク予測法の確立—有限要素解析の応用—
〃	藤 田 義 人 医学部 麻酔科学, 教授(特任)	1,100 (継続)	330	脳水チャネルアクアポリンのRNA i 機能調節による脳浮腫抑制の臨床応用
〃	橋 本 篤 医学部 麻酔科学, 助教	1,300 (継続)	390	消化管運動障害でのアストロサイトを介する腸管神経系制御機構の役割と麻酔薬作用
〃	谷 川 徹 医学部 耳鼻咽喉科学, 准教授	1,100 (継続)	330	新規アディポサイトカイン「オメンチン」の加齢性難聴における役割
〃	瓶 井 資 弘 医学部 眼科学, 教授	700 (継続)	210	活性型プロテインCによる網膜再灌流メカニズムの解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	武山直志 医学部 救命救急科, 教授	600 (継続)	180	侵襲下における血管新生と血管透過性の動態解析: 幹細胞移植による再生治療の試み
〃	馮国剛 医学部 薬理学, 講師	700 (継続)	210	酸化ストレス誘導蛋白質であるWD R35/naofen遺伝子の転写制御因子の同定
〃	山中真 看護学部 クリティカルケア看護学, 准教授	300 (継続)	90	転倒外傷予防に向けた基礎研究
〃	白井裕子 看護学部 在宅看護学, 講師	1,000 (継続)	300	野宿生活者が「野宿」から「社会」に戻ることを目指した看護支援
〃	宮本淳 医学部 心理学, 准教授	400 (継続)	120	剽窃を予防する教育実践効果の分析: コピペ依存からの脱却をはかるプロセス介入教育
〃	仙石昌也 医学部 物理学, 准教授	400 (継続)	120	クラウドを利用した協働学習によるレポート作成過程の分析とその教育効果
〃	大道裕介 医学部 解剖学, 講師	700 (継続)	210	慢性痛を防ぐ集学的治療の基盤開発—理学療法における精神薬物療法の併用法の検討—
〃	山森孝彦 医学部 外国語, 教授	1,000 (継続)	300	医学部低中学年を対象とした英語医療面接指導のための評価ルーブリックの開発
〃	稲垣秀晃 客員研究員	1,100 (継続)	330	超音波とフェロモンを評価に加えた実験動物におけるより精度の高い愛護と福祉の確立
〃	久保昭仁 医学部 内科学(呼吸器・アレルギー・内科), 教授(兼任)	1,600 (継続)	480	ゲノムワイド解析による進行肺がんの治療実現へ向けた基盤研究
〃	佐藤元彦 医学部 生理学, 教授	1,200 (継続)	360	G蛋白活性調節因子による血管形成制御機構の解析
〃	増渕悟 医学部 生理学, 教授	1,500 (継続)	450	時間治療のための腫瘍内低酸素と生物時計の相互作用の解明
〃	林寿来 医学部 生理学, 講師	1,400 (継続)	420	新規VEGF受容体結合因子に基づく血管新生制御法の検討
〃	安井正佐也 医学部 解剖学, 助教	1,100 (継続)	330	機能性身体症候群にみられる病的疼痛と疲労の発症メカニズムの解析
〃	羽渕脩躬 客員教授	1,300 (継続)	390	炎症・疼痛制御における肥満細胞、マクロファージ高硫酸化プロテオグリカンの機能解明
〃	平井宗一 医学部 解剖学, 教授(特任)	1,000 (継続)	300	睡眠時無呼吸症候群の呼吸異常における硫化水素・セロトニンの関与に関する研究
〃	山口奈緒子 医学部 薬理学, 准教授	1,200 (継続)	360	ストレス応答調節におけるネガティブ・フィードバック破綻の機序の解明
〃	伊藤清顕 医学部 内科学(肝胆腸内科), 教授(特任)	1,200 (継続)	360	B型肝炎における遺伝子型分布の変遷および分子生物学的検討
〃	中尾春壽 医学部 内科学(肝胆腸内科), 教授(特任)	1,200 (継続)	360	内在性遺伝子ターゲティング法を用いた肝臓におけるp53アイソフォームの機能解析
〃	伊藤理部 医学部 内科学(呼吸器・アレルギー・内科), 准教授	1,400 (継続)	420	基質硬度に起因する肺および気道リモデリング制御機構と細胞基質力学検知機構の解明
〃	恒川新 医学部 糖尿病内科, 講師	1,400 (継続)	420	糖尿病における歯髄幹細胞を利用した臍島移植の向上

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	中 村 二 郎 医学部 内科学(糖尿病内科), 教授	600 (継続)	180	シュワン細胞の神経終末誘引・保護作用の糖尿病多発神経障害に対する有益性の検討
〃	森 島 泰 雄 客員教授	1,100 (継続)	330	国際共同HLA研究による移植片対宿主病と移植片対白血病反応機序の解明
〃	西 原 真 理 医学部 学際的痛みセンター, 教授(特任)	500 (継続)	150	感覚過敏に対する新しい治療法の開発
〃	鈴木 耕 次 郎 医学部 放射線医学, 准教授	900 (継続)	270	マルチパラメトリック画像による胆管癌の時空間的予後決定因子解析
〃	安 藤 孝 人 医学部 乳腺・内分泌外科, 助教(医員助教)	500 (継続)	150	画像融合技術を用いた超音波装置による乳癌乳房温存手術支援システムの開発
〃	中 野 正 吾 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 教授	500 (継続)	150	磁気ナビゲーションによる乳腺MRI検出病変の超音波ガイド下生検支援システムの開発
〃	三 輪 祐 子 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 助教	1,300 (継続)	390	ABO血液型不適合腎移植における免疫学的リスク・ベネフィット解析と抗体治療の開発
〃	風 岡 宜 暁 医学部 歯科口腔外科, 教授	900 (継続)	270	高解像度アレイCGH法によるエナメル上皮腫のゲノム診断及び分子標的薬の開発
〃	森 護 莉 那 看護学部 成人看護学, 講師	700 (継続)	210	成人期がん患者の療養と社会生活の両立を支援するソフトウェア開発と運用可能性の検討
〃	山 本 弘 江 看護学部 母性看護学, 准教授	1,200 (継続)	360	乳児をもつ夫婦の産後うつの実態と家族を支える地域連携モデルの開発
〃	小 島 徳 子 看護学部 母性看護学, 助教	600 (継続)	180	NICU入院児を持つ褥婦への足湯による乳頭・乳輪の状態の定量化と搾乳に及ぼす効果
〃	坂 本 真 理 子 看護学部 地域看護学, 教授	1,200 (継続)	360	多文化に対応する子どもと親のための健康教育ハンドブックの開発
〃	内 田 育 恵 医学部 耳鼻咽喉科学, 准教授(特任)	500 (継続)	150	聴覚コミュニケーション障害からみた高齢者・障害者・認知症ケアの在り方に関する検討
〃	大 道 美 香 医学部 解剖学, 助教	1,100	330	習慣的運動による慢性痛予防機序の基礎的解明
〃	松 永 昌 宏 医学部 衛生学, 講師	2,100	630	ソーシャル・キャピタルと心身の健康との関連に関する社会神経科学的研究
〃	犬 飼 洋 子 医学部 生理学, 講師	3,200	960	辛味性(口腔内TRPV1活性化)発汗による選択的脳冷却の検討: 熱中症予防への応用
〃	梅 澤 一 夫 医学部 分子標的医薬寄附講座, 教授	1,200	360	三次元培養がん細胞の浸潤を阻害する微生物由来生理活性物質の探索
〃	小 西 裕 之 医学部 生化学, 教授(特任)	1,300	390	CRISPR-Cas9 nickaseによるDNA二重鎖切断を伴わないゲノム編集
〃	杉 浦 信 夫 分子医学研究所 准教授	1,200	360	酵素合成コンドロイチン硫酸のナノ粒子複合体の調製と, CS受容体の探索と機能解析
〃	山 村 彩 医学部 生理学, 助教	1,500	450	カルシウム感受性受容体を創薬標的とした新規肺高血圧症治療薬の探索
〃	加 塩 麻 紀 子 医学部 生理学, 講師	1,200	360	CALHMチャンネル極性ソーティングの分子基盤の解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	稲熊真悟 医学部 病理学, 講師	1,500	450	膵癌細胞におけるPD-L1発現と腫瘍幹細胞性・上皮間葉転換による悪性形質の解析
〃	小松孝行 医学部 感染・免疫学, 准教授	1,800	540	パラミクソウイルスV蛋白質のインフラマソーム抑制能は病原性発現に重要か?
〃	林 櫻 松 医学部 公衆衛生学, 准教授	1,500	450	糖尿病と膵がんに関する分子遺伝疫学的解析
〃	奥田真珠美 医学部 小児科学・教授(特任)	1,200	360	胃癌予防のための中学・高校生ピロリ菌検診と除菌治療: 実施方法の検討
〃	岡田尚志郎 医学部 薬理学, 教授	1,000	300	室傍核におけるノルアドレナリン神経系-CRF関連はストレス反応持続に関与するか?
〃	中出幸臣 医学部 肝胆臓内科, 准教授(特任)	1,200	360	迷走神経に着目したNASH病態の解明と治療応用
〃	神谷英紀 医学部 内科学(糖尿病内科), 准教授	1,400	420	体性幹細胞とその分泌因子を用いた世界初の糖尿病性神経障害治療法の開発
〃	中山享之 医学部 内科学(血液内科), 准教授	1,100	330	白血病幹細胞を保護する骨髄細動脈ニッチ: その制御機構の解明
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学, 講師	1,100	330	グリアに着目した急性脳炎・脳症の病態解明と新規治療法の開発
〃	山田恭聖 医学部 周産期母子医療センター教授(特任)	1,300	390	新生児期痛みストレスによる自閉症スペクトラム障害を阻止する内分泌機能保護療法
〃	矢野智紀 医学部 外科学(呼吸器外科), 教授(特任)	1,500	450	女性ホルモンが非浸潤性肺腺癌に及ぼす影響: 新たな肺癌治療法の確立を目指して
〃	大須賀浩二 医学部 脳神経外科学, 教授(特任)	1,100	330	慢性硬膜下血腫被膜への好酸球誘導因子の解明と新たな治療法の確立
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	1,400	420	新規バイオマテリアルを用いた脊髄損傷治療の可能性-細胞外環境操作と炎症制御解析-
〃	藤原祥裕 医学部 麻酔科学, 教授	1,800	540	局所麻酔薬の神経細胞毒性においてT型カルシウムチャンネルが果たす役割の解明
〃	住友誠 医学部 泌尿器科学, 教授	1,200	360	アミノ酸代謝リプログラミング機構に着目した前立腺癌に対する新規診断・治療法の確立
〃	岩崎研太郎 医学部 腎疾患・移植免疫寄附講座, 准教授	1,600	480	T細胞垂集団の偏りを生むHLA・A/B抗体と内皮細胞応答: 抗体陽性移植の新機軸
〃	吉川和宏 研究創出支援センター 特務教授	1,000	300	子宮頸がんを発生させるHPVのE7蛋白を標的とした細胞内分子標的療法の開発
〃	若槻明彦 医学部 産婦人科学, 教授	1,100	330	子宮内膜症女性の心血管疾患発症予防のための新しいホルモン療法の開発
〃	小川徹也 医学部 耳鼻咽喉科学・教授(特任)	1,100	330	頭頸部がん治療における新たなる免疫化学療法の開発-CTLと抗がん薬併用の意義
〃	加納秀記 医学部 救急診療部, 教授(特任)	1,700	510	ICU関連筋力低下における骨格筋前駆細胞の動態解析: 間葉系幹細胞移植療法の応用
〃	出原弥和 看護学部 基礎看護学Ⅱ・准教授	800	240	多職種連携カンファレンスに必要とされる看護師の能力と基礎看護教育の役割の明確化

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	白鳥 さつき 看護学部 基礎看護学Ⅰ, 教授	1,000	300	在宅および外来で化学療法を受ける患者家族の抗がん剤曝露 予防のシステム構築
挑戦的萌芽研究	伴 信 太 郎 医学部 医学教育センター・特命教授	(延長)	0	共感をキーワードにして臨床推論と患者中心の医療を融合す る外来診療実習プログラム
〃	木 下 浩 之 医学部 麻酔科学, 教授(特任)	900 (継続)	270	恐怖記憶形成における麻酔薬作用の分子科学的機序の解明
〃	浅野 いずみ 看護学部 地域看護学, 助教	300 (継続)	90	発達障害を疑われた外国人未就学児と親のための療育支援モ デルの検討
挑戦的研究 (萌芽)※	岡 田 洋 平 医学部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	2,000	600	CAGリポート編集によるポリグルタミン病の根治的治療法の 開発
若手研究(B) (基金)	佐 藤 麻 紀 医学部 IR室, 講師	(延長)	0	糖尿病患者および肥満者におけるアディポカインの季節差- 光と運動による介入実験-
〃	竹 内 幹 伸 医学部 脳神経外科学, 講師	(延長)	0	頸神経根の微小循環動態(Micro-Circulation)の解明
〃	矢 倉 富 子 医学部 解剖学, 助教	800 (継続)	240	慢性疼痛に共感をもたらす回復機序の解明-認知行動療法の 基礎的検討-
〃	岩 味 健 一 郎 医学部 脳神経外科, 講師	900 (継続)	270	新たな髄膜腫細胞株・動物モデルの樹立と髄膜腫に対する新 規薬剤治療法の評価
〃	三 善 郁 代 看護学部 基礎看護学Ⅱ, 講師	100 (継続)	30	経管栄養関連器材における衛生管理方法の調査~ガイドライ ン作成に向けて~
〃	伊 藤 秀 明 医学部 病理学, 助教	1,000 (継続)	300	ヘッジホック関連因子STILによる浸潤突起を介した膵臓癌 浸潤機構の解明
〃	塩 田 有 史 薬学部 薬剤師	800 (継続)	240	大規模医療データベースを用いたCDIのリスク因子の検討
〃	岩 山 秀 之 医学部 小児科学, 講師	1,900 (継続)	570	MCT8異常症の新規診断法の開発と神経障害モデル動物を用 いた遺伝子治療の有効性
〃	竹 下 覚 医学部 周産期母子医療センター, 助教	1,000 (継続)	300	トロンボポエチンに注目した新生児血小板減少症の機序解明 とその新規治療法
〃	新 海 宏 明 客員研究員	1,100 (継続)	330	多能性幹細胞由来運動神経細胞を用いた神経再支配による麻 痺筋の新規治療戦略
〃	梶 川 圭 史 医学部 泌尿器科, 助教	600 (継続)	180	カット長を長くした新たな生検針による、臨床上有用でない 前立腺癌の識別能の向上
〃	白 木 幸 彦 医学部 眼科学, 助教	1,400 (継続)	420	網膜血行再建の機序解明と臨床応用
〃	武 藤 太 一 郎 医学部 小児科, 講師	900 (継続)	270	乳児アレルギーの発症とアレルギーマーチに関わる胎内環境 と発症予測マーカーの研究
〃	室 谷 健 太 医学部 臨床研究支援センター, 准教授	1,100	330	リスクスコアに基づく経済的エンリッチメントデザインの構 築
〃	高 間 寛 之 医学部 皮膚科学, 講師	1,600	480	尋常性乾癬に対するEGFR阻害薬を用いた新規外用療法の 開発
〃	小 林 郁 生 医学部 泌尿器科学, 助教	900	270	腎癌細胞におけるArtemisinin誘導体の抗腫瘍作用の検討

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究(B) (基金)	坪井孝太郎 医学部 眼科学, 助教	1,600	480	毛様体解離による眼圧コントロール
〃	丸地佑樹 医学部 救命救急科, 助教(医員助教)	1,600	480	敗血症性獲得免疫障害:T細胞受容体遺伝子分析によるレパ トア形成能の解析
〃	大野隆之 医学部 歯科口腔外科, 助教	1,100	330	CDDP,ATO併用による口腔癌抗腫瘍効果の分子基盤解析及 び効率的化学療法の開発
〃	古橋明文 医学部 歯科口腔外科, 助教	600	180	閉塞性睡眠時無呼吸における新たなスクリーニング検査法の 開発
〃	河村諒 看護学部 成人看護学, 助教	500	150	広域避難した高齢被災者に対する継続支援の実態と生活再建 支援モデルの構築
〃	黒澤昌洋 看護学部 クリティカルケア看護学, 講師	600	180	看護師特定行為研修(区分別科目)の教育システム開発に関 する研究
奨励研究 (補助金)	野田貴幸 薬学部 薬剤学, 教授	570	0	ヒト化マウスを用いたドナー特異的HLA抗体(DSA)産生B 細胞の分化・機能の解析

※挑戦的研究(萌芽)は交付決定前のため交付内定情報を記載

- ・研究種目及び課題番号順にて記載
- ・氏名は、e-Rad(府省共通研究開発管理システム)研究者登録名にて記載
- ・「交付決定通知」及び「交付申請書」を基に作成
- ・平成29年7月までの転入転出を含む
- ・基金については、今年度請求額を記載

平成29年度厚生労働行政推進調査事業費補助金交付決定

平成29年度厚生労働行政推進調査事業費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位:千円)

研究事業名	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
慢性の痛み政策研究事業	牛田享宏 医学部 学際的痛みセンター, 教授	39,000	11,000	慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究

- ・氏名は、e-Rad(府省共通研究開発管理システム)研究者登録名にて記載
- ・「国庫補助の交付基準額等について」及び「交付決定通知書」を基に作成

平成29年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究開発契約の締結

平成29年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され、次のとおり研究契約を締結しました。

(金額単位：円)

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	伊藤清顕 医学部 内科学(肝胆臓内科), 教授(特任)	10,000,000	胆汁酸代謝調節機構を標的としたB型肝炎ウイルス制御
革新的先端研究開発支援事業ユニットタイプ「生体恒常性維持・変容・破綻機構のネットワーク的理解に基づく最適医療実現のための技術創出」研究開発領域	伊藤恭彦 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 教授	4,550,000	生体内の異物・不要物排除機構の解明とその制御による疾患治療
長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(感覚器障害分野)	内田育恵 医学部 耳鼻咽喉科学, 准教授(特任)	4,997,332	プロダクティブ・エイジング(生産的高齢化)社会の実現に向けた難聴者への補聴介入-遂行機能と社会活動性に注目した検討
難治性疾患実用化研究事業	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	27,690,000	疾患特異的iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の新規治療薬シーズの探索
難治性疾患実用化研究事業	奥村彰久 医学部 小児科学, 教授	8,320,000	早産児核黄疸の包括的診療ガイドラインの作成
創薬支援推進事業創薬総合支援事業	武内恒成 医学部 生物学, 教授	12,096,404	コンドロイチン硫酸生合成阻害剤の探索
感染症実用化研究事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	森島恒雄 客員 教授	12,500,000	新型インフルエンザ等への対応に関する研究
脳科学研究戦略推進プログラム	吉田眞理 加齢医科学研究所 教授	6,800,000	名古屋地区の神経疾患拠点の構築

- ・平成29年7月までの本学と日本医療研究開発機構との直接契約課題を記載。
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

海外研修派遣研修記

本学では、教育、研究活動等の向上に寄与するため、教員の海外研修派遣を実施しています。この度、放射線科の北川晃助教が海外研修へ参加されましたので、ご紹介します。

北川 晃

(放射線科・助教)

研修課題：血管奇形に対するIVR治療の成績向上と合併症の予防

研修先：シャリテ医科大学放射線科（ドイツ）
Department of Radiology, Charité -
Universitätsmedizin Berlin: Campus
Virchow - Klinikum

研修期間：平成29年3月30日～平成29年6月26日

私はこの度、ドイツの首都ベルリンにあるシャリテ医科大学(Charité)に約3か月間留学する機会を得ました。ご存知のようにベルリンは、冷戦時代に東西に分断されていた歴史があり、市内の医学部も約半世紀にわたり分かれて存在していましたが、再統一後に再編が進み、医学部はCharitéとして一つに統合されました。その結果、市内及び郊外に計四つのキャンパス及び病院を有する、欧州でも有数の大規模な高度医療機関となりました。愛知県内にある四つの医学部及び附属病院が一つの医局に属していると想像して頂ければ、それがいかに巨大かがお分かり頂けると思います。

そもそも私が今回留学することになったのは、以前にCharitéから本院放射線科へ留学に来ていた、Matthias Reaf医師と友人になったことがきっかけでした。彼の留学中には、公私ともに多くの時間を共にし、帰国後も連絡を取り合い、ベルリンでの結婚式にも招いてくれ、東洋人として唯一出席もしました。数年にわたり熱心に私の留学を招いてくれており、石口恒男教授のお力添えもあって留学が実現しました。

Charitéを留学先としたのは、この友人の存在も大きいことながら、私の専門領域である「血管奇形に対するIVR治療」を数多く行っているからです。血管奇形は、頻度が約1万人に1人と言われている稀な難病であり、治療の経験・ノウハウを有する限られた施設でしか治療が行われていません。私は主に、Charité内で最もIVR治療を精力的に行っている、Campus Virchow-Klinikum (CVK) というところへ毎日出勤していましたが、そこではベルリンのみならず遠方からも多くの患者さんが来られていました。

ドイツと日本における血管奇形に対するIVR治療の最も大きな違いは、使用・認可されている薬剤です。一例を述べますと、血管奇形の中でも最も難治性と言われている動静脈奇形に対しては、本邦では球状塞栓物質のみが保険での使用が認可されています。しかし、認可されてまだ日が浅いこともあり、症状軽減には効果があるものの、長期的な根治効果については現時点では不明点も多く、従来使用されてきた液体塞栓物質等と組み合わせて治療が行われていることが多いのが現状です。これに対してドイツ国内では、GLUEBRAN 2という液体塞栓物質の動静脈奇形への血管内投与が認可されています。本院放射線科では、液体塞栓物質としてNBCA (n-butyl



CVKは中央に緑地を伴うメインストリートがあり、その両側に各診療棟が立ち並び伝統的なスタイルが踏襲されています



検査室にてGünther教授と

cyanoacrylate) を用いることが多いですが、このGLUEBRAN 2は、NBCAよりも重合時間が長い為、時間的・精神的余裕をもって異常血管内へより広範に、末梢の動静脈短絡部まで注入することが可能で、非常に適した塞栓物質であると実感しました。滞在期間中には、数多くの手技に関わりましたが、特に血管奇形症例においては全てのIVR治療に参加し、CVKを統括する治療経験豊富なGebauer教授に毎回直接指導して頂き、大変貴重な治療経験を得ることができました。

Charitéには、他にも多くの高名な医師が在籍しておられ、数年前に国際学会における私のプレナリーセッションにおいてコメンテーターを務めて頂いたGünther教授とも再会することができました。Günther教授は、元々アーヘン大学で長らく放射線科の教授を務められた世界的に有名なIVR医で、本院においてもGünther教授のお名前を冠したIVCフィルターが使われています。ご退官後は、Charitéにアドバイザーとして在籍しておられ、ほぼ毎日手技を見に来られては何かと私を気に掛けて下さり、院内で大変充実した時間を過ごすことができました。

最後に、このような貴重な機会を与えて下さいました石口教授及び放射線科医局員の皆さまに、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取組みなどについて紹介いたします。

輸血部

輸血部は、本院中央診療部門に属し、中央棟2階で医師3名（兼務2名）と臨床検査技師9名で各診療科と協力しながら輸血関連検査及び血液製剤管理などの輸血診療の全般を担っています。

輸血関連検査はABO血液型やRh血液型、更にそれ以外の血液型検査を実施して、患者さんの血液型を判定しています。また、輸血による溶血性副作用を防止するために不規則抗体検査を実施し、患者さんに適合した血液製剤を選択するための交差適合試験を実施して安全な輸血医療を提供しています。

また、赤血球製剤や新鮮凍結血漿など血液製剤のみならず、血液由来のアルブミン製剤、免疫グロブリン製剤、フィブリノゲン製剤など血漿分画製剤の管理、適正輸血の推進などを実践しています。加えて、危機的出血に対応するための止血用製剤としてクリオプレシビテート、輸血副作用の防止のために洗浄血小板などの院内調整を実施しています。更に、自分自身の血液を用いる自己血採血とその管理、末梢血幹細胞採取やCD34陽性細胞数



輸血部スタッフの皆さん

の測定など造血幹細胞移植に関連した業務を実践しています。同時に、国の基準に準拠した細胞調製室（CPC）を持ち、再生医療や免疫細胞療法などの先進的な細胞治療に関しても積極的に取り組んでいます。

私たち輸血部スタッフは、日本輸血・細胞治療学会認定医、輸血認定技師、細胞治療認定管理師、日本再生医療学会認定医など専門性の高い認定資格を持ち、安全で質の高い医療を目指し、正確で慎重な検査、製剤管理及び治療に努めております。

看護学部

医療英語 教授・近藤真治

看護学部では、1・2学年次の英語科目と教養ゼミナールを、大学院看護学研究科では、英語文献講読を担当しています。英語の必修科目は1学年次のみで終了してしまうので、その間は看護英語（医療英単語、臨床英会話）の訓練と並行して、英語の正しい学習法を伝えることを心掛けています。英語能力の向上には、地道な自己学習が不可欠です。多くの学生が、講義で紹介した方法を駆使して、卒業後も学習を継続してくれることを願っています。

看護学部2学年次には、より専門的な語彙を学習するとともに、英語による健康歴の聴取や症例報告の読解を行います。内容はかなり高度なものとなりますが、同時期にヘルスアセスメントや病態治療学を履修していることもあり、学生は興味を持って講義に臨んでいるようです。

大学院では、New England Journal of Medicine の Case Records や専門誌のアブストラクトの読解を行っています。英語学習にブランクがある学生たちも、臨床経験から得た知識を生かして頑張っています。

研究活動としては、主に医療英語に関する本の執筆を行っています。本学へ着任した2011年以来3冊を刊行し、現在4冊目を執筆中です。次の本のテーマは目下思案中です。



規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

研究戦略会議規程の制定

愛知医科大学研究戦略会議規程が制定され、本学における研究の実施に係る全学的な事項を審議するため、愛知医科大学研究戦略会議が設置されました。

施行日は平成29年5月22日

教員選考基準の制定

本学における教員の選考に係る諸規則の見直しが行われ、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年6月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学医学部教員選考基準
- ・愛知医科大学看護学部教員選考基準

【廃止】

- ・愛知医科大学看護学部教員選考基準（旧）

「卓越した学生に対する学納金の減免について」の裁定

平成29年7月24日付けで「卓越した学生に対する学納金の減免について」が学長裁定され、課外活動においても顕著な活躍が認められた、卓越した学生に対する学納金の減免について必要な事項が定められました。

病院長任用規程の一部改正

改正医療法施行規則の施行に伴い、愛知医科大学病院長任用規程の一部が改正され、病院長候補者の選考基準が改められました。

施行日は平成29年6月1日

病院部長会規程の一部改正

愛知医科大学病院部長会規程の一部が改正され、部長会に代理出席制度が導入されました。

施行日は平成29年6月1日

医療安全管理委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院医療安全管理委員会規程の一部が改正され、医療安全管理委員会の委員構成が改められました。

施行日は平成29年6月1日

輸血療法委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院輸血療法委員会規程の一部が改正され、輸血療法委員会の運営体制が改められました。

施行日は平成29年5月1日

栄養部規程の一部改正

愛知医科大学病院栄養部規程の一部が改正され、調理部門の円滑な業務運営のため、副総括主任が置かれました。

施行日は平成29年6月1日

経理規程の一部改正等

総合学術情報センターの設置による業務内容の整理に伴い、次の関係規則が整備され、固定資産の定義が現状に即した表現に改められました。

施行日はいずれも平成29年6月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学経理規程
- ・学校法人愛知医科大学固定資産管理規程

「懲戒処分の公表指針について」の裁定

平成29年7月18日付けで「懲戒処分の公表指針について」が理事長裁定され、本学の懲戒処分について公表する基準が定められました。